

## 南相馬市内遺跡発掘調査報告書11

### —平成25・28年度試掘調査報告—

原山遺跡 (2次調査)	仏供田B遺跡	台遺跡
石ノ宮製鉄遺跡	熊野前遺跡	梨木下西館跡 (3次調査)
永田古墳群B	赤柴遺跡 (2次調査)	迎山遺跡 (2次調査)
高見町C遺跡 (3次調査)	片草南原遺跡 (2次調査)	大田和広畑遺跡 (5次調査)
新田原遺跡 (2次調査)	中村平遺跡 (3次調査)	仏供田B遺跡 (2次調査)
前迫製鉄遺跡	荒神前遺跡 (7次調査)	泉館跡 (3次調査)
鷺内遺跡 (3・4次調査)	迎山遺跡	陣ヶ崎A遺跡 (2次調査)
桜井D遺跡 (16次調査)	高松C遺跡	荻原遺跡 (7次調査)
桜井B遺跡 (13次調査)	石橋遺跡 (2次調査)	羽倉南沢地区
北海老北畑遺跡	深沢遺跡	寺内本屋敷地区
小高城跡 (3次調査)	八幡林遺跡 (15次調査)	
比丘尼沢遺跡 (2次調査)	桜井B遺跡 (14次調査)	
城ノ内遺跡	荒神前遺跡 (8次調査)	
荒神前遺跡 (6次調査)	赤柴遺跡 (3次調査)	



## 南相馬市内遺跡発掘調査報告書11

### —平成25・28年度試掘調査報告—

原山遺跡（2次調査）	仏供田B遺跡	台遺跡
石ノ宮製鉄遺跡	熊野前遺跡	梨木下西館跡（3次調査）
永田古墳群B	赤柴遺跡（2次調査）	迎山遺跡（2次調査）
高見町C遺跡（3次調査）	片草南原遺跡（2次調査）	大田和広畑遺跡（5次調査）
新田原遺跡（2次調査）	中村平遺跡（3次調査）	仏供田B遺跡（2次調査）
前迫製鉄遺跡	荒神前遺跡（7次調査）	泉館跡（3次調査）
鷺内遺跡（3・4次調査）	迎山遺跡	陣ヶ崎A遺跡（2次調査）
桜井D遺跡（16次調査）	高松C遺跡	萩原遺跡（7次調査）
桜井B遺跡（13次調査）	石橋遺跡（2次調査）	羽倉南沢地区
北海老北畑遺跡	深沢遺跡	寺内木屋敷地区
小高城跡（3次調査）	八幡林遺跡（15次調査）	
比丘尼沢遺跡（2次調査）	桜井B遺跡（14次調査）	
城ノ内遺跡	荒神前遺跡（8次調査）	
荒神前遺跡（6次調査）	赤柴遺跡（3次調査）	



# 序 文

平成 23 年 3 月 11 日、東北地方から関東地方にかけての広範囲で大規模な地震が発生いたしました。後に『東日本大震災』と呼ばれることになるこの大地震と、地震によって発生した津波は東日本各地の太平洋沿岸に押し寄せ、家屋などの財産とともに多くの尊い人命を失うことになりました。また、津波の襲来に端を発した東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故は、福島県をはじめとした広範囲に放射性物質を放出するという世界史上まれに見る大規模災害を引き起こしました。

南相馬市でも地震や津波によって多くの家屋が被災し、多くの尊い人命を失いました。放射性物質の拡散では市内の一部が警戒区域、計画的避難区域、特定避難勧奨地点、緊急時避難準備区域等の避難区域に指定され、自宅への立ち入りが制限される事態となりました。事故後約 7 年が経過しようとしている現在では、避難指示等が出されていた地域の多くが解除され、見た目には震災以前の状態に戻りつつありますが、それでも今なお、多くの方々が生み慣れた故郷を離れ、南相馬市外や福島県外、そして仮設住宅等での避難生活を送っています。

本書は、東日本大震災の混乱が続く平成 28 年度に、文部科学省の補助金の交付を得て実施した埋蔵文化財の調査報告です。

埋蔵文化財をはじめとする地域に残る文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産です。また、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上や発展、そして地域のアイデンティティー形成の根幹をなすものであります。

これらの埋蔵文化財の調査の成果が文化財の保護や地域研究ため、更には被災され方々の目に触れ、震災を経験した南相馬市の復興の礎として活用されることを祈念します。

終わりに、試掘調査の実施にご協力賜りました地権者の皆様、ならびに関係機関の皆様、加えて震災復旧、復興にご支援、ご尽力頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

南相馬市教育委員会  
教育長 阿部 貞 康



## 例 言

1. 本書に記載した内容は、平成25・28年度に南相馬市教育委員会が実施した南相馬市内の埋蔵文化財試掘調査、発掘調査の成果報告である。
2. 試掘調査・発掘調査等にかかる経費は、文部科学省補助金の交付を得ている。
3. 発掘調査ならびに報告書刊行は、以下の体制で実施した。

- ・調査期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日  
平成28年4月1日～平成29年3月31日
- ・整理期間 平成28年4月1日～平成30年3月31日
- ・調査主体 南相馬市教育委員会

### 事務局 南相馬市教育委員会文化財課

#### 平成28年度

教育長	阿部 貞 康	主任文化財主事	藤 木 海
事務局長	木 村 浩 之	主任文化財主事	佐 川 久
文化財課長	堀 耕 平	主 査	林 紘太郎
文化財係長	川 田 強	埋蔵文化財調査員	濱 須 脩 (嘱託)
主 査	佐 藤 友 之	埋蔵文化財調査員	横 田 竜 巳 (嘱託)
主任文化財主事	荒 淑 人		

#### 平成29年度

教育長	阿部 貞 康	主任文化財主事	藤 木 海
事務局長	木 村 浩 之	主任文化財主事	佐 川 久
文化財課長	堀 耕 平	主 査	林 紘太郎
文化財係長	川 田 強	埋蔵文化財調査員	濱 須 脩 (嘱託)
主 査	佐 藤 友 之	埋蔵文化財調査員	小 椋 紗貴江 (嘱託)
主任文化財主事	荒 淑 人		

- ・整理補助員 赤石澤 真子・泉田 あずさ・岩崎 美和子・太田 雅彦・岡田 光生  
加藤 美恵子・亀田 真由美・寺島 千尋・飯崎 健二・渡部 定子

4. 平成28・29年度には、福島県教育委員会からの市町村技術支援により、以下の職員からの支援を受けた。

- ・平成28年度 柴 田 亮 平 (山梨県支援)
- ・平成29年度 高 橋 保 雄 (新潟県支援)  
加 藤 学 (新潟県支援)

5. 発掘調査に際しては、次の機関及び個人から協力を得た。記して感謝の意を申し上げる。  
南相馬市・寶藏寺・株式会社ワールドアイシティ・昭和運輸株式会社・佐藤建設株式会社・特定非営利活動法人農林水産技術支援機構・株式会社アースクリエーション・株式会社東北地質・株式会社トレードジャパン・東北電力株式会社・有限会社住宅情報社・株式会社オーディーアイ東北支店・ソフトバンク株式会社・関場建設株式会社・株式会社東北エンジニアリング・株式会社キクチ・高橋研一・佐藤文雄・佐藤洋司・古内邦夫・柳沼小晴・佐々木教喜・原 敏則・北畑勝良・藤家八重子・福崎隆典・原 好光・西 道典・小椋宏文・佐藤茂勝・高野光二・阿部喜良・伏見清嗣・門馬誠一・佐々木初雄・今野スミ子 (順不同 敬称略)
6. 発掘調査、報告書作成にあたり、次の方々から指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。  
文化庁文化財部記念物課・福島県教育委員会公益法人福島県文化振興財団・福島県立博物館 木村裕之・豊田克史・岡部睦美・山本友紀・山岸英夫・吉野滋夫(福島県教育委員会)・木川正夫(愛知県支援)・柴田亮平(山梨県支援)・福島雅儀(鳥取県支援)・内田和典(北海道支援)・武田寛生(静岡県派遣)・最上法聖(青森県派遣)・高橋保雄・加藤 学(新潟県派遣)・堀口智彦(埼玉県派遣)・渡瀬健太(兵庫県派遣)・斉木 巖・山田佑生(兵庫県神戸市支援)・吉田秀享・能登谷宜康・門脇秀典(公益法人福島県文化振興財団)
7. 本報告書に掲載した文章ならびに挿図・写真図版は調査担当者が執筆・作成し、最終的な編集は各担当者と協議して林が行った。
8. 調査で得られた資料は、南相馬市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 図中の方位は真北方向を示し、水系レベルは海拔高度を示す。
2. 本文並びに図作成に使用した記号・略号は、以下の内容を示す。  
T：トレンチ SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SI：堅穴住居跡 SK：土坑 P：ピット  
SX：性格不明遺構 K：攪乱 L：基本層位 0：遺構内層位



# 目 次

序 文	.....	i
例 言	.....	iii
凡 例	.....	iv
目 次	.....	v
挿 図 目 次	.....	vi
写 真 目 次	.....	vii
表 目 次	.....	ix

## 第Ⅰ章 南相馬市を取り巻く環境

### 第1節 遺跡を取り巻く環境

第1項 地理的環境	.....	1
第2項 歴史的環境	.....	1

## 第Ⅱ章 調査に至る経過

### 第1節 調査に至る経過

第1項 平成25年度 試掘調査の概要	.....	5
第2項 平成28年度 試掘調査の概要	.....	5

## 第Ⅲ章 調査成果

### 第1節 平成25年度試掘調査成果

第1項 第1項 原山遺跡（2次調査）	.....	12
--------------------	-------	----

### 第2節 平成28年度試掘調査成果

第1項 石ノ宮製鉄遺跡	.....	26
第2項 永田古墳群B	.....	27
第3項 高見町C遺跡（3次調査）	.....	31
第4項 新田原遺跡（2次調査）	.....	32
第5項 前迫製鉄遺跡	.....	33
第6項 鷺内遺跡（3・4次調査）	.....	35
第7項 桜井D遺跡（16次調査）	.....	38
第8項 桜井B遺跡（13次調査）	.....	39
第9項 北海老北畑遺跡	.....	40
第10項 小高城跡（3次調査）	.....	42
第11項 比丘尼沢遺跡（2時調査）	.....	43
第12項 城ノ内遺跡	.....	44
第13項 荒神前遺跡（6次調査）	.....	45
第14項 仏供田B遺跡	.....	46

第15項	熊野前遺跡	47
第16項	赤柴遺跡（2次調査A地点・B地点）	48
第17項	片草南原遺跡（2次調査）	50
第18項	中村平遺跡（3次調査）	51
第19項	荒神前遺跡（7次調査）	52
第20項	迎山遺跡	53
第21項	高松C遺跡	55
第22項	石橋遺跡（2次調査）	56
第23項	深沢遺跡	57
第24項	八幡林遺跡（15次調査）	58
第25項	桜井B遺跡（14次調査）	73
第26項	荒神前遺跡（8次調査）	74
第27項	赤柴遺跡（3次調査）	75
第28項	赤坂B遺跡	76
第29項	台遺跡	78
第30項	梨木下西館跡（3次調査）	80
第31項	迎山遺跡（2次調査）	82
第32項	大田和広畑遺跡（5次調査）	86
第33項	仏供田B遺跡（2次調査）	87
第34項	泉館跡（3次調査）	88
第35項	陣ヶ崎A遺跡（2次調査）	89
第36項	荻原遺跡（7次調査）	90
第37項	羽倉南沢地区	91
第38項	寺内木屋敷地区	98

報告書抄録

奥 付

挿 図 目 次

図 1	南相馬市位置図	1
図 2	主要遺跡位置図	4
図 3	調査遺跡位置図	11
図 4	原山遺跡位置図	12
図 5	調査区位置図	12
図 6	原山遺跡2次調査状況図	13
図 7	S101・06・07 平面図	14
図 8	原山遺跡 S101・S106・S107 断面図	15
図 9	S103 平面図及び断面図	16
図 10	S104 平面図及び断面図	16
図 11	S105 平面図	17
図 12	原山遺跡3次調査出土遺物（1）	18
図 13	原山遺跡3次調査出土遺物（2）	19
図 14	原山遺跡3次調査出土遺物（3）	20
図 15	石ノ宮製鉄遺跡位置図	26
図 16	調査区位置図	26
図 17	永田古墳群B位置図	27
図 18	調査区位置図	29
図 19	永田古墳群B地形測量図	30
図 20	高見町C遺跡位置図	31
図 21	調査区位置図	31
図 22	新田原遺跡位置図	32
図 23	調査区位置図	32
図 24	前始製鉄遺跡位置図	33

図 25	調査区位置図	33
図 26	鷺内遺跡位置図	35
図 27	調査区位置図	35
図 28	桜井D遺跡位置図	38
図 29	調査区位置図	38
図 30	桜井B遺跡位置図	39
図 31	調査区位置図	39
図 32	北海老北畑遺跡位置図	40
図 33	調査区位置図	40
図 34	小高城跡位置図	42
図 35	調査区位置図	42
図 36	比丘尼沢遺跡位置図	43
図 37	調査区位置図	43
図 38	城ノ内遺跡位置図	44
図 39	調査区位置図	44
図 40	荒神前遺跡位置図	45
図 41	調査区位置図	45
図 42	仏供田B遺跡位置図	46
図 43	調査区位置図	46
図 44	熊野前遺跡位置図	47
図 45	調査区位置図	47
図 46	赤榮遺跡位置図	48
図 47	調査区位置図	48
図 48	A地区位置図	49
図 49	B地区位置図	49
図 50	片草南原遺跡位置図	50
図 51	調査区位置図	50
図 52	中村平遺跡位置図	51
図 53	調査区位置図	51
図 54	荒神前遺跡位置図	52
図 55	調査区位置図	52
図 56	迎山遺跡位置図	53
図 57	調査区位置図	53
図 58	高松C遺跡位置図	55
図 59	調査区位置図	55
図 60	石橋遺跡位置図	56
図 61	調査区位置図	56
図 62	深沢遺跡位置図	57
図 63	調査区位置図	57
図 64	八幡林遺跡位置図	58

図 65	調査区位置図	58
図 66	4 T基本土層断面、 遺構平面図及び断面図	60
図 67	6 T遺構平面図	62
図 68	6 T基本土層及び遺構断面図 (2号住居跡・3号土坑)	63
図 69	基本土層出土遺物	68
図 70	1号溝跡、1・2号住居跡出土遺物	69
図 71	桜井B遺跡位置図	73
図 72	調査区位置図	73
図 73	荒神前遺跡位置図	74
図 74	調査区位置図	74
図 75	赤榮遺跡位置図	75
図 76	調査区位置図	75
図 77	赤坂B遺跡位置図	76
図 78	調査区位置図	76
図 79	台遺跡位置図	78
図 80	調査区位置図	78
図 81	梨木下西館跡位置図	80
図 82	調査区位置図	80
図 83	迎山遺跡位置図	82
図 84	調査区位置図	82
図 85	5 T平面図	83
図 86	9 T平面図	83
図 87	大田和広畑遺跡位置図	86
図 88	調査区位置図	86
図 89	仏供田B遺跡位置図	87
図 90	調査区位置図	87
図 91	泉館跡位置図	88
図 92	調査区位置図	88
図 93	陣ヶ崎A遺跡位置図	89
図 94	調査区位置図	89
図 95	荻原遺跡位置図	90
図 96	調査区位置図	90
図 97	羽倉南沢地区位置図	91
図 98	調査区位置図	92
図 99	羽倉南沢地区 出土遺物(1)	94
図 100	羽倉南沢地区 出土遺物(2)	95
図 101	寺内本屋敷地区位置図	98
図 102	調査区位置図	98

## 写真目次

### 原山遺跡(2次調査)

写真1	原山遺跡A地区(南西から)	21
写真2	原山遺跡A地区調査状況(東から)	21
写真3	原山遺跡S101(南から)	21
写真4	原山遺跡S103東側断面	21
写真5	原山遺跡S103断面	21
写真6	原山遺跡S104(南から)	21
写真7	原山遺跡S106断面	21
写真8	原山遺跡S107カメラ下輸出状況	22
写真9	原山遺跡S107土器出土状況	22
写真10	原山遺跡B地区(南西から)	22
写真11	原山遺跡S105土器出土状況(1)	22
写真12	原山遺跡S105土器出土状況(2)	22

写真13	原山遺跡出土遺物(1)	23
写真14	原山遺跡出土遺物(2)	24
写真15	原山遺跡出土遺物(3)	25

### 石ノ宮製鉄遺跡

写真16	2 T調査状況	26
------	---------	----

### 高見町C遺跡(3次調査)

写真17	3 T調査状況	31
------	---------	----

### 新田原遺跡(2次調査)

写真18	3 T調査状況	32
------	---------	----

## 前泊製鉄遺跡

写真19	1 T 調査区断面	34
写真20	3 T 調査状況	34
写真21	4 T 調査状況	34
写真22	10 T 調査状況	34
写真23	12 T 木炭焼成土坑確認状況	34
写真24	廃滓場確認状況	34

## 蟹内遺跡 (3・4次調査)

写真25	調査前状況	36
写真26	1 T 調査状況	36
写真27	1 G 調査状況	36
写真28	2 T 調査状況	37
写真29	3 T 調査状況	37
写真30	3 T 土層断面	37
写真31	5 T 調査状況	37
写真32	5 T 貯蔵穴調査状況	37
写真33	8 T 調査状況	37
写真34	8 T 遺構検出状況	37
写真35	12 T 調査状況	37
写真36	12 T 土層断面	37

## 桜井D遺跡 (16次調査)

写真37	調査着手前	38
写真38	調査状況	38

## 桜井B遺跡 (13次調査)

写真39	1 T 調査状況	39
写真40	2 T 調査状況	39

## 北海老北畑遺跡

写真41	調査着手前(1)	40
写真42	調査着手前(2)	40
写真43	1号廃滓場土層断面	41
写真44	1号木炭焼成坑土層断面	41
写真45	1号木炭焼成坑完掘状況	41
写真46	1号墳 北側周溝範囲	41
写真47	1号墳墳丘	41
写真48	2号墳北側周溝	41

## 小高城跡 (3次調査)

写真49	1 T 全景	42
写真50	2 T 全景	42

## 比丘尼沢遺跡 (2次調査)

写真51	9 T 調査状況	43
写真52	炭窯検出状況	43

## 城ノ内遺跡

写真53	1 T 調査状況	44
写真54	2 T 調査状況	44

## 荒神前遺跡 (6次調査)

写真55	調査前状況	45
写真56	1 T 調査状況	45

## 仏供田B遺跡

写真57	19 T 調査状況	46
------	-----------	----

## 熊野前遺跡

写真58	調査前状況	47
写真59	1 T 調査状況	47

## 赤柴遺跡 (2次調査)

写真60	A地区 1 T 調査状況	49
写真61	A地区 3 T 調査状況	49
写真62	B地区 1 T 調査状況	49
写真63	B地区 3 T 調査状況	49

## 片草南原遺跡 (2次調査)

写真64	調査前状況	50
写真65	1 T 調査状況	50

## 中村平遺跡 (3次調査)

写真66	1 T 調査状況	51
写真67	1 T 調査区断面	51

## 荒神前遺跡 (7次調査)

写真68	調査前状況	52
写真69	1 T 調査状況	52

## 迎山遺跡

写真70	調査前状況	54
写真71	調査前状況	54
写真72	4 T 調査状況	54
写真73	木炭窯検出状況	54
写真74	1 T 調査状況	54
写真75	1 T 製鉄炉検出状況	54
写真76	1 T 製鉄炉検出状況	54
写真77	1 T 製鉄炉検出状況	54

## 高松C遺跡

写真78	1 T 調査状況	55
写真79	3 T 調査状況	55

## 石橋遺跡 (2次調査)

写真80	2・3 T 調査状況	56
------	------------	----

## 深沢遺跡

写真81	1 T 調査状況	57
写真82	2 T 調査状況	57

## 八幡林遺跡 (15次調査)

写真83	調査前状況	65
写真84	1 T 全景	65
写真85	1 T 土層断面	65
写真86	2 T 全景及び土層断面	65
写真87	2 T 1号土坑土層断面	65
写真88	3 T 全景及び土層断面	65
写真89	5 T 全景及び土層断面	65
写真90	調査区埋戻状況	65
写真91	4 T 遺構検出状況	65
写真92	4 T 基本土層断面	65
写真93	4 T 2号土坑土層断面	65
写真94	4 T 遺構検出状況	65
写真95	4 T 1号溝跡土層断面	65

写真96	4 T 1号溝跡完掘状況	65	写真133	24 T 遺構検出状況	81
写真97	4 T 1号住居跡土層断面	65	写真134	27 T 遺構検出状況	81
写真98	4 T 1号住居跡完掘状況	65	写真135	28 T 遺構検出状況	81
写真99	6 T 遺構検出状況	67	写真136	28 T 作業風景	81
写真100	6 T 基本土層断面	67			
写真101	6 T 遺構検出状況(拡張部分)	67	<b>迎山遺跡(2次調査)</b>		
写真102	6 T 3号土坑完掘状況	67	写真137	調査前状況全景	85
写真103	6 T 2号住居跡全景	67	写真138	5 T 調査状況	85
写真104	6 T 2号住居跡複式炉	67	写真139	5 T SWk1検出状況	85
写真105	6 T 2号住居跡貼床断面	67	写真140	5 T SWk1完掘状況	85
写真106	6 T 完掘状況	67	写真141	9 T 調査状況	85
写真107	八幡林遺跡出土遺物(1)	70	写真142	9 T SWk2調査状況	85
写真108	八幡林遺跡出土遺物(2)	71	写真143	9 T 遺構検出状況	85
写真109	八幡林遺跡出土遺物(3)	72			
<b>榎井B遺跡(14次調査)</b>			<b>大田和広畑遺跡(5次調査)</b>		
写真110	1 T 調査状況	73	写真144	調査前状況	86
写真111	2 T 調査状況	73	写真145	調査状況	86
<b>荒神前遺跡(8次調査)</b>			<b>仏供田B遺跡(2次調査)</b>		
写真112	1 T 調査状況	74	写真146	1 T 調査状況	87
写真113	1 T 拡張部調査状況	74	写真147	3 T 木炭焼成坑完掘状況	87
<b>赤柴遺跡(3次調査)</b>			<b>泉館跡(3次調査)</b>		
写真114	調査着手前	75	写真148	1 T 調査状況	88
写真115	1 T 調査状況	75			
<b>赤坂B遺跡</b>			<b>陣ヶ崎A遺跡(2次調査)</b>		
写真116	遺跡遠景	77	写真149	1 T 調査状況	89
写真117	調査区近景	77	写真150	2 T 断割り状況	89
写真118	2号廃洋場検出状況	77	<b>荻原遺跡(7次調査)</b>		
写真119	1号木炭窯跡検出状況(1)	77	写真151	1 T 調査状況	90
写真120	遺物出土状況(伊壁)	77	写真152	6 T 調査状況	90
写真121	1号木炭窯跡検出状況(2)	77			
<b>台遺跡</b>			<b>羽倉南沢地区</b>		
写真122	調査前状況	79	写真153	A区7 T 調査状況	93
写真123	調査前状況	79	写真154	B区3 T 調査状況	93
写真124	1 T 調査状況	79	写真155	C区15 T 調査状況	93
写真125	2 T 調査状況	79	写真156	D区26 T 調査状況	93
写真126	18 T 調査状況	79	写真157	E区37 T 調査状況	93
写真127	19 T 調査状況	79	写真158	F区44 T 調査状況	93
			写真159	羽倉南沢地区出土遺物(1)	96
			写真160	羽倉南沢地区出土遺物(2)	97
<b>梨木下西館跡(3次調査)</b>			<b>寺内本屋敷地区(2次調査)</b>		
写真128	塚状遺構調査状況	81	写真161	1 T 調査状況	98
写真129	1 T 塚状遺構断面	81	写真162	2 T 土坑確認状況	98
写真130	9 T 調査状況	81			
写真131	12 T 調査状況	81			
写真132	19 T 調査状況	81			

## 目 次

表1	南相馬市主要遺跡一覧表	3
----	-------------	---



## 第1章 南相馬市を取り巻く環境

### 第1節 遺跡を取り巻く環境

#### 第1項 地理的環境

福島県南相馬市は、福島県太平洋岸の中央部やや北寄りに位置する。行政境としては、北側は相馬市、南側は双葉郡浪江町、西側は相馬郡飯館村と接する。

浜通り地方の地質は、阿武隈高地東縁部と浜通り低地帯、双葉断層（岩沼―久之浜構造線）により明瞭に区分される。

市内の地形を見ると、西部域に南北方向に連なる阿武隈高地が縦走り、そこから太平洋に向かって派生する低丘陵と丘陵間に開析された沖積平野で構成される。阿武隈高地にかかる西側の丘陵の標高は100～150mを測り、海岸部に近い市内中心付近では標高50～60m前後、海岸部では20～30mとなる。



図1 南相馬市位置図

#### 第2項 歴史的環境

南相馬市内に所在する旧石器時代の遺跡としては、大谷地遺跡(1)・畦原A遺跡(2)・畦原C遺跡(3)・熊下遺跡(4)・袖原A遺跡(5)・陣ヶ崎A遺跡(6)・南町遺跡(7)・橋本町A遺跡(8)・橋本町B遺跡(9)・桜井遺跡(10)、荻原遺跡(11)の11遺跡があり、後期旧石器時代のナイフ形石器や彫刻刀型石器を出土している。

縄文時代の遺跡では、宮後A遺跡(12)・宮後B遺跡(13)から大木7a～10式、八幡林遺跡(14)では早期から晩期までの土器が出土する。八重米坂A遺跡(15)・羽山B遺跡(16)・畦原F遺跡(17)では早期から前期の遺構・遺物が確認されており、赤沼遺跡(18)・犬沼遺跡(19)でも前期の土器が出土している。中期では阿武隈高地裾部にある前田遺跡(20)や、新田川北岸の台地上にある高松遺跡(21)で大木7b～10式、植松A遺跡(22)で大木10式期の住居跡が調査されている。

太田川流域の上ノ内遺跡(23)・町川原遺跡(24)では後期の網取式が出土し、片倉の羽山遺跡(25)では晩期の大河C1～A式、高見町A遺跡(26)では晩期中葉の土器と土圍炉をもつ住居跡が調査されている。宮田貝塚(27)・加賀後貝塚(28)・片草貝塚(29)は内陸部に位置する貝塚を伴う前期前半の集落である。前期後半以降には海岸部にある浦尻貝塚(30)や角部内南台貝塚(31)が代表的な貝塚として知られている。

弥生時代としては天神沢遺跡(32)や桜井遺跡(33)が著名であるが、近年では桜井古墳(34)や川内迫B遺跡群F地点(35)で中期中葉の樹形囲式土器が出土し、高見町A遺跡からは終末期

の十王台式土器が出土している。

古墳時代では、古墳時代前期に新田川南岸の河岸段丘上に桜井古墳が築造され、周辺の古墳と共に桜井古墳群上洪佐支群(36)・同高見町支群(37)を構成する。真野川流域の柚原古墳群(38)では周溝内から埴釜式土器が出土し、高見町A遺跡・桜井B遺跡(39)・東広畑B遺跡(40)でも埴釜式土器が出土している。前方後円墳である上ノ内前田古墳(41)は中期の可能性があり、真野古墳群(42)・横手古墳群(43)は円筒埴輪を伴うことから、その造営開始は中期末まで遡る可能性がある。この時期の集落は前屋敷遺跡(44)で南小泉式土器を出土する竪穴住居跡が調査されている。後期になると桜井古墳群高見町支群・真野古墳群・横手古墳群などで本格的に古墳群の造営が開始される。真野古墳群は100基を超える東北地方を代表する後期群集墳である。後期の集落としては大六天遺跡(45)・迎畑遺跡(46)・地藏堂B遺跡(47)・片草古墳群一里段支群(48)・中村平遺跡(49)で後期から終末期の土器が出土する。終末期の横穴墓のうち大塚横穴墓群(50)・羽山横穴墓群(51)・浪岩横穴墓群(52)は玄室内部に装飾壁画が見られ、真野川流域の中谷地横穴墓群は(53)複室構造の玄室を採用している。

奈良・平安時代の遺跡では行方郡家とされる泉官衙遺跡(泉廃寺跡)(54)があり、郡庁院・正倉院・館院などが確認されている。横手廃寺跡(55)・真野古城跡(56)・植松廃寺跡(57)・入道始瓦窯跡(58)・京塚沢瓦窯跡(59)・犬道瓦窯跡(60)などは瓦を出土する遺跡であり、寺院や瓦を焼成した遺跡と考えられる。市内の低丘陵では製鉄に関連した遺跡が多数確認されており、金沢製鉄遺跡群(61)・蛭沢遺跡(62)・川内始B遺跡群・出口遺跡(63)・大塚遺跡(64)・横大道遺跡・館越遺跡などで調査が進展している。集落遺跡では広畑遺跡(65)を始めとして市内各地で確認されているが、集落の具体的な構造を知るまでには至っていない。広畑遺跡からは「寺」「厨」などの墨書土器とともに灰陶陶器が出土し、隣接する泉官衙遺跡との関連が示唆される。大六天遺跡から出土した「小穀殿千之」と刻書された須恵器は、行方軍団との関わりが、町川原遺跡でも墨書土器が出土しているが、広畑遺跡のような公的機関の施設名を記したものは見られず、異なった性格をもつ集落と考えられる。

主な中世の遺跡としては城館跡が挙げられ、下総国から下向した相馬氏の最初の居城となる別所館跡(66 現太田神社)や牛越城跡(67)は、相馬氏下向以前の城館跡として良く知られている。小高城跡(68 現小高神社)は相馬氏の居城として機能した中世城館である。本城跡は嘉暦元年から慶長十六年に相馬利胤が中村城を築城するまでの約290年間重要な役割を占めた。その他では泉平館跡(69)・泉館跡(70)・下北高平館跡(71)で調査が行われている。

近世の遺構は、寛文六年以降に築かれた野馬土手と、その出入口となる木戸跡や相馬氏の居城として再整備された牛越城跡がある。野馬土手は、雲雀ヶ原扇状地を囲む、東西約10km×南北約2.6kmの範囲に築かれており、土手内外の出入り口となった羽山岳の木戸跡(72)は南相馬市指定史跡に指定され、良好な形で保存されている。近世後半から近代にかけては中村藩の大規模なたたらである馬場鉄山(73)や正福寺跡(74)、法幢寺跡(75)で近世墓城の調査が行われている。



No.	遺跡名	種別	時代
1	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文
2	畦原A遺跡	散布地	旧石器
3	畦原C遺跡	散布地	旧石器
4	熊下遺跡	散布地	旧石器
5	柚原A遺跡	散布地	旧石器
6	俣ヶ崎A遺跡	散布地	旧石器
7	南町遺跡	散布地	旧石器
8	橋本町A遺跡	散布地	旧石器
9	橋本町B遺跡	散布地	旧石器
10	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生 古墳・奈良・平安
11	荻原遺跡	散布地・製鉄跡	旧石器・奈良・平安
12	宮後A遺跡	集落・散布地	縄文
13	宮後B遺跡	集落・散布地	縄文
14	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文
15	八重木坂A遺跡	集落・散布地	縄文
16	羽山B遺跡	集落・散布地	縄文
17	畦原F遺跡	住落・散布地	縄文
18	赤沼遺跡	集落・散布地	縄文
19	大沼遺跡	散布地	縄文
20	前田遺跡	散布地	縄文
21	高松遺跡	散布地	縄文
22	植松A遺跡	集落・散布地	縄文
23	上ノ内遺跡	散布地	縄文
24	町川原遺跡	集落・散布地	縄文
25	羽山遺跡	集落・散布地	縄文
26	高見町A遺跡	集落・散布地	縄文～平安
27	宮田貝塚	貝塚・散布地	縄文
28	加賀後貝塚	貝塚・散布地	縄文
29	片草貝塚	貝塚・散布地	縄文
30	浦尻貝塚	貝塚・散布地	縄文・平安
31	角部内南台貝塚	貝塚・散布地	縄文
32	天神沢遺跡	散布地	弥生
33	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生・ 古墳・奈良・平安
34	桜井古墳	古墳	古墳
35	川内館B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
36	桜井古墳群 上沢支群	古墳・散布地	縄文～平安
37	桜井古墳群 高見町支群	古墳・集落	縄文～古墳
38	柚原古墳群	古墳	古墳
39	桜井B遺跡	集落・散布地	弥生・平安
40	東広畑遺跡	集落・散布地	弥生～平安

表1 南相馬市主要遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代
41	上ノ内前田古墳	古墳	古墳
42	真野古墳群	古墳	古墳
43	横手古墳群	古墳	古墳
44	前屋敷遺跡	集落・散布地	縄文～古墳
45	大六天遺跡	集落・散布地	古墳～平安
46	迎畑遺跡	集落・散布地	古墳
47	地蔵堂B遺跡	集落・散布地	古墳
48	片草古墳群 一里段支群	古墳・集落	古墳～平安
49	中村平遺跡	集落・散布地	古墳
50	大塚横穴墓群	横穴墓	古墳
51	羽山横穴墓群	横穴墓	古墳
52	浪岩横穴墓群	横穴墓	古墳
53	中谷地横穴墓群	横穴墓	古墳
54	皇官街遺跡	官衙	奈良・平安
55	横手庵寺跡	寺院	平安
56	真野古城跡	城館	不明
57	植松庵寺跡	寺院	奈良・平安
58	入道館瓦葺跡	宗跡	奈良・平安
59	京塚沢瓦葺跡	宗跡・製鉄	奈良・平安
60	金沢製鉄遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
61	磐石遺跡	製鉄	奈良・平安
62	川内館B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
63	出口遺跡	製鉄	平安
64	大塚遺跡	製鉄	平安
65	広畑遺跡	集落・散布地	奈良・平安
66	別所館跡	城館	中世
67	牛越城跡	城館	中世
68	小高城跡	城館	中世
69	泉館跡	城館・散布地	中世
70	泉館跡	城館	中世
71	下北高平館跡	城館	中世
72	羽山岳の木戸跡	その他	近世
73	馬場鉄山	製鉄	近世
74	正福寺跡	寺院	近世
75	法権寺跡	寺院・集落	奈良・平安・近世

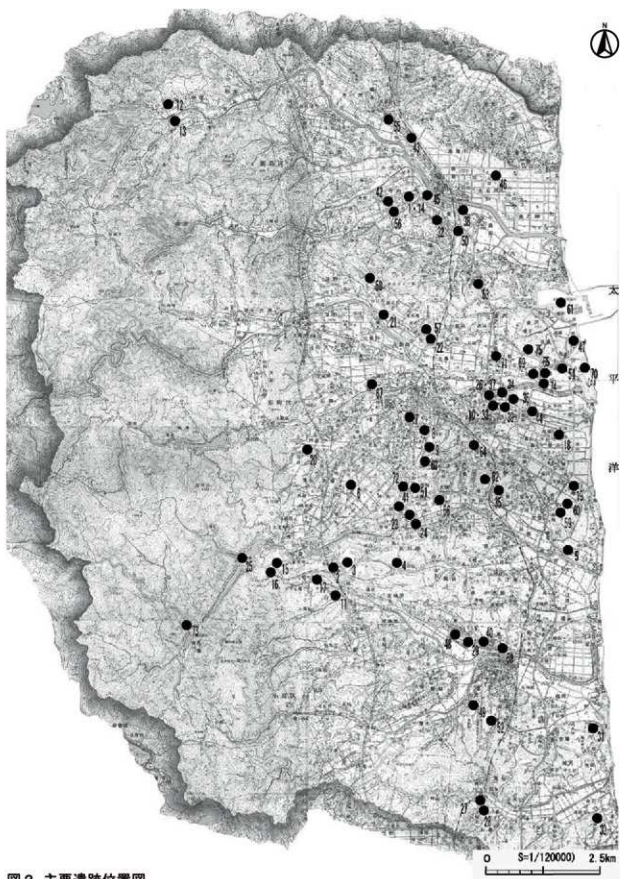


圖2 主要遺跡位置圖

## 第Ⅱ章 調査に至る経過

### 第1節 調査に至る経過

#### 第1項 平成25年度 試掘調査の概要

平成25年度に実施した試掘調査の概要については、既に刊行している「南相馬市内遺跡発掘調査報告書8」で概述していることから、この項では本書に記載する原山遺跡の調査に至る経過について述べる。

原山遺跡は南相馬市原町区を流れる新田川南岸に、広く展開する河岸段丘の東端に立地する、弥生時代の遺物散布地として埋蔵文化財包蔵地に登録がなされている。これまでは、本格的な発掘調査等が行われた経過はなく、平成24年度に東日本大震災の被害を受けた住宅の再建のための試掘調査が唯一となっている。この時の試掘調査では、桜井式土器を埋設した土坑1基が調査されただけで、遺跡の内容については、不明な部分が多いのが実情である。

本書で報告する原山遺跡2次調査は、平成25年6月から民間企業の事務所及び倉庫の建設計画に先立って行った。発掘調査は建物基礎の掘削により遺構が失われる事務所建設箇所と倉庫建設箇所の2地点を重点的に行った。

調査の結果、A区では竪穴住居跡5軒と土坑4基を確認・調査し、B区では竪穴住居跡1軒と土坑1基を確認調査した。本書では、これらの発掘調査で出土し遺物群を中心に報告をする。

#### 第2項 平成28年度 試掘調査の概要

平成28年度に市内遺跡発掘調査で実施した試掘調査は、市内の各種開発計画に対する保存協議に必要な資料を得るために行った。最終的な実績では、周知の埋蔵文化財包蔵地内で30遺跡37地点、周知の埋蔵文化財包蔵地外で2地点の合計39地点において試掘調査を行った。

試掘調査を開発目的別に見ると、個人住宅建設が10件、集合住宅建設が4件、土砂採取計画に関するものが14件、公共事業に関するものが3件、その他の民間開発に関するものが8件を数える。

個人住宅建設に関するものでは、桜井D遺跡、小高城跡、城ノ内遺跡、荒神前遺跡3地点、熊野前遺跡、片草南原遺跡、中村平遺跡、赤柴遺跡であり、事前に開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査をした。

桜井D遺跡は新田川南岸の河岸段丘縁辺に立地する、縄文時代から平安時代の集落である。近隣には桜井B遺跡や桜井C遺跡等が所在している。過去に15回の発掘調査が行われ、平安時代を中心とした時期の集落が確認されている。今回の開発面積は468㎡であり、調査区を12㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。調査期間は、平成28年6月6日から同月7日までの間に実施された。

小高城跡は、小高川北岸の河岸段丘上に立地する。下総国より下向した相馬氏の居城として

機能した中世城館である。現在は相馬小高神社が鎮座しており、国指定重要無形民俗文化財である相馬野馬追における野馬懸の舞台となっている。本遺跡の調査は、平成28年6月15日に開発面積912.5㎡のうち50㎡分を調査区として設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

城ノ内遺跡は、太田川南方の低丘陵地に立地しており、奈良・平安時代の遺物散布地である。過去の調査歴はなく、詳細は不明である。本遺跡の調査は、平成28年6月21日から同月22日に実施し、開発面積660.84㎡のうち、25㎡を調査区として設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

荒神前遺跡は、小高川の支流前川の北岸に広がる河岸段丘に立地する。本遺跡は過去に5回実施しており、奈良・平安時代の集落跡が確認されている。本遺跡の調査は、平成28年6月27日に6次調査、平成28年8月1日から同月2日に7次調査、平成28年11月1日に8次調査を実施し、6次調査では開発面積1,125.6㎡のうち10㎡、7次調査では開発面積1,090.74㎡のうち2.6㎡、8次調査では開発面積1,051㎡のうち16.5㎡を調査区として設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

熊野前遺跡は、真野川南岸に位置し真野川により形成された自然堤防上に立地する。過去に調査例はないが、土師器片等を表採することができる遺物散布地である。周辺には古墳時代前期の円墳を有する柚原古墳群が展開する。本遺跡の調査は、平成28年7月5日に実施され、開発面積359㎡のうち、調査区を14㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

片草南原遺跡は、上記した荒神前遺跡と同様前川北岸の河岸段丘上に位置し、荒神前遺跡の北西に展開する。過去に調査が実施されており、平安時代の住居跡と推定される遺構を検出している。本遺跡の調査は平成28年7月11日に実施し、開発面積488.64㎡のうち、調査区を10㎡設定し埋蔵文化財の有無を確認した。

中村平遺跡は、小高川東岸の河岸段丘西縁に立地する。過去の調査歴から奈良時代の住居跡が確認されている。周辺には奈良・平安時代の遺物が散布する玉ノ木平A・B・C遺跡や古墳時代後期の群集墳とされる玉ノ木平古墳群や漆原古墳群が所在しており、古墳時代から平安時代の遺跡が分布する地域である。本遺跡の調査は平成28年8月1日に実施し、開発面積159.68㎡のうち16㎡を掘削し埋蔵文化財の有無を確認した。

赤柴遺跡は、雲雀が原扇状地を流れる笹部川北岸に発達した丘陵に位置する。過去の調査より、縄文時代から平安時代までの集落跡が確認されている。周辺には、北西に縄文時代中期の遺物が出土している前田遺跡が位置している。本遺跡の調査は、平成28年11月1日に実施し、開発面積159.68㎡のうち、調査区を16㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

集合住宅建設に関するものでは、高見町C遺跡、桜井B遺跡2地点、八幡林遺跡であり、事前に開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査をした。

高見町C遺跡は、新田川の南岸に展開する河岸段丘に立地する。周辺には国指定史跡桜井古墳を中止とした桜井古墳群が存在し、縄文時代から奈良・平安時代にかけての集落遺跡である高見町A遺跡が展開している。本遺跡は、過去に2回調査しており、1次調査において弥生時代中期後葉の桜井式土器の破片が出土している。本遺跡の調査は平成28年4月8日から同月11日に、開発面積581.54㎡のうち、調査区を3㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

桜井B遺跡は、新田川南岸の河岸段丘に立地する。本遺跡周辺には、縄文時代から奈良・平安時代までの集落遺跡や前方後方墳の桜井古墳を主とする古墳群も展開する遺跡密集地である。本遺跡の調査は過去に12回実施されており平安時代の住居跡が確認されている。本遺跡の調査は、平成28年6月14日から同月15日に13次調査、平成28年9月28日から10月3日に14次調査を実施し、13次調査では開発面積846.03㎡のうち38㎡、14次調査では660㎡のうち30㎡を調査区に設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

八幡林遺跡は、真野川の支流上真野川の南岸南方に展開する河岸段丘に位置する。過去に13回調査が行われており、縄文時代、古墳時代の集落が確認されている。同遺跡内には古墳時代後期の群集墳である真野古墳群A地区が展開し、縄文時代及び古墳時代の遺跡が密集する地域である。本遺跡の調査は、開発面積1,847㎡のうち、調査区を144.3m設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

土砂採取計画に関するものでは、石ノ宮製鉄遺跡、永田古墳群B、前始製鉄遺跡、比丘尼沢遺跡、仏供田B遺跡2地点、赤柴遺跡、迎山遺跡2地点、石橋遺跡、赤坂B遺跡、台遺跡、荻原遺跡、羽倉南沢地区であり、事前に開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査をした。

石ノ宮製鉄遺跡は、真野川北部に東西に走る丘陵に位置する。周辺には南屋形古墳群や南屋形横穴墓群をはじめとする古墳時代の遺跡が展開し、中世期には相馬氏と同様に関東から下向した岩松氏の居館として知られる阿弥陀寺館跡が存在する。本遺跡における過去の調査歴はないが、製鉄遺跡の痕跡として鉄滓の散布が確認されている。本遺跡の調査は、平成28年4月12日に実施し、開発面積73,370㎡のうち43㎡を掘削し埋蔵文化財の有無を確認した。

永田古墳群Bは、前述した石ノ宮製鉄遺跡の南西に位置し、丘陵頂部に前方後円墳、円墳が展開する古墳群である。本遺跡の調査は、平成28年4月1日から5月31日に実施し、開発面積73,370㎡のうち、調査区を134㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

前始製鉄遺跡は、真野川の支流潤谷川の南岸に発達した丘陵に位置する。本遺跡の一部が、開発予定地に一部含まれていたため、当初、その範囲のみ埋蔵文化財の有無を確認したが、開発予定地内において新たな廃滓場が複数確認されたことから遺跡包蔵地の増補を行った。本遺跡の周辺は、割田製鉄遺跡群や大始遺跡など製鉄に関連した遺跡が多数立地する地域である。本遺跡の調査は、平成28年4月12日から平成28年5月20日に実施し、開発面積10,271㎡のうち、調査区を89.5㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

比丘尼沢遺跡は、新田川北中流域北部の低丘陵に位置する。本遺跡は、当地の土砂採取事業の計画に基づき、試掘調査を平成27年度に実施しており、その調査の結果より、新たに遺跡包蔵地として登録された遺跡である。過去の調査では、廃滓場、木炭窯跡、住居跡が確認されており、製鉄関連遺跡であることが判明している。また、本遺跡は、割田製鉄遺跡群をはじめとする製鉄遺跡が密集する地域に位置している。本遺跡の調査は、平成28年6月20日から7月26日に実施し、開発面積166,388㎡のうち、調査区248.3㎡を設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

仏供田B遺跡は、小高川南岸に広がる沖積地から南西に延びる沢と南に延びる沢に挟まれた

低丘陵地に位置する。本遺跡は、土砂採取事業の計画に基づき本開発予定地を踏査した結果、南西向き斜面に廃滓場を発見したことから、新たな遺跡包蔵地として登録した遺跡である。本遺跡の調査は、平成28年6月22日から同月29日に1次調査、平成29年1月24日から同月31日に2次調査を実施しており、1次調査は開発面積10,257㎡のうち36.3㎡、2次調査は開発面積3,454㎡のうち、調査区を54㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

赤柴遺跡は既述のとおり、縄文時代から平安時代の集落跡である。今回は、土砂開発事業による開発計画に基づく調査である。調査は、平成28年7月20日から同月21日に実施し、開発面積18,752㎡のうち、調査区を27.29㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

迎山遺跡は、飯崎川北岸の低丘陵地に位置する。当地の土砂採取事業計画に基づき、本開発予定地内を踏査した結果、南向きに開析した谷の傾斜面において廃滓場を発見したことから、製鉄関連遺跡として、新たに遺跡包蔵地として登録した遺跡である。本遺跡の調査は、平成28年8月9日から9月14日に1次調査、平成28年12月13日から平成29年1月29日に2次調査を実施し、開発面積40,000㎡のうち1次調査では73㎡、2次調査では60.1㎡を調査区として設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

石橋遺跡は、牛来川西岸の低丘陵地に位置する。過去に調査が実施されており、木炭窯跡及び木炭焼成土坑が検出しており、奈良・平安時代の製鉄関連遺跡として位置付けられている。本遺跡の調査は、開発面積9,975㎡のうち調査区を31.6㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

赤坂B遺跡は、新田川支流の水無川北岸の低丘陵地中腹から頂部に至る南向き斜面に位置する。本遺跡の調査歴はないが、隣接する北明内遺跡において平安時代の住居跡、廃滓場、木炭窯跡、木炭焼成土坑等の鉄生産に関連した遺構が、踏査及び試掘調査により多数確認されており、本遺跡においても確認される可能性がある。本遺跡の調査は、平成28年10月18日から11月29日に実施され、開発面積9,900㎡のうち調査区を185㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

台遺跡は、飯崎川北岸の低丘陵地に位置する。過去の調査歴はないが、土器片が地表面に確認できる遺物散布地として周知されている。周辺には、前述した迎山遺跡が本遺跡西側に展開しており、東側には前方後円墳として周知されている手子塚古墳が位置する。本遺跡の調査は、平成28年11月17日から同月25日に実施され、開発面積1,6256.86㎡のうち調査区を400㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

荻原遺跡は、北鳩原川と大穴川により、開析された舌状の低丘陵地に位置する。本遺跡は旧石器時代及び縄文時代の遺物散布地であり、近年実施された常磐自動車道建設工事に関連する発掘調査により、平安時代の製鉄関連遺跡であることも確認された。本遺跡の調査は、土砂採取事業計画に基づく調査であり、平成28年10月31日から12月5日に実施され、開発面積13,127㎡のうち、調査区を123.64㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

羽倉南沢地区は、遺跡包蔵地外であるものの、土砂採取事業を実施する開発面積が広大であり、埋蔵文化財が存在する可能性があることから、事業者側からの照会により現地表面調査を実施した。調査では、縄文時代前期の土器片を表採するとともに木炭窯跡等の古代の製鉄関連遺構が発見され、今後、遺跡包蔵地として新規登録予定である。本地区における調査は、平

成29年2月8日から3月31日まで実施され、開発面積342,508㎡のうち、調査区を375㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

公共事業に関するものでは、鷺内遺跡2地点、高松C遺跡であり、事前に開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査をした。

鷺内遺跡は、真野川南岸の沖積地に立地する、縄文時代の遺物散布地である。隣接地の中才遺跡では、縄文時代後期から晩期の遺物包含層や貯蔵穴などが確認されている。本遺跡の調査は、県立特別支援学校建設に伴う敷地造成に先立ち、平成27年度から試掘調査を2回実施している。平成28年度は、平成28年4月21日から5月16日に3次調査を、平成29年1月25日から3月10日に4次調査を実施した。また、開発面積は、21,512.37㎡のうち、3次調査では62㎡、4次調査では258㎡の調査区を設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

高松C遺跡は、新田川北岸の河岸段丘に位置する。市道改良に伴う工事計画に基づき、試掘調査を実施した。本遺跡の調査歴はないが、開発予定地には多数の土師器片及び須恵器片が露出しており、奈良時代、平安時代の集落が展開していたと考えられている。本遺跡の調査は、平成28年9月6日から同月9日まで実施し、開発面積1,303.5㎡のうち12.9㎡を掘削により埋蔵文化財の有無を確認した。

その他の民間開発に関するものでは、新田原遺跡、北海老北畑遺跡、深沢遺跡、梨木下西館跡、大田和広畑遺跡、泉館跡、陣ヶ崎A遺跡、寺内木屋敷地区であり、事前に開発予定地内の試掘調査の実施について依頼を受け、試掘調査を実施した。

新田原遺跡は、新田川南岸に形成された沖積地に立地する。過去に調査が1度実施されているが、遺構・遺物は確認されていない。今回の開発面積は27,600㎡であり、うち135.4㎡を調査区として設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。調査期間は平成28年5月18日から同月30日まで実施した。

北海老北畑遺跡は、真野川北岸に展開する東西に延びる低丘陵地に位置する。本遺跡は、当地における墓地造成事業計画に基づき、調査を実施した。その結果、古墳2基と廃滓場が確認され、新規の遺跡包蔵地として登録された遺跡である。本遺跡の調査は、平成28年6月17日から7月19日まで実施し、開発面積36,000㎡のうち、調査区を195㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

梨木下西館跡は、太田川北岸の低丘陵地に位置する。平成27年度に試掘調査が実施されており、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡を検出し、各時代の遺物が出土している。開発計画では、既調査範囲を含めて農地造成等の土地改良工事を実施する計画であり、その範囲内において試掘調査を実施した。調査は、平成28年12月14日から平成29年2月2日に行われ、開発面積14,769㎡のうち、調査区を266.5㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

大田和広畑遺跡は、小高川北岸の河岸段丘上に位置する。本遺跡は過去に複数回実施されており、縄文時代、奈良・平安時代の集落遺跡が確認されている。今回の調査は、携帯電話中継無線基地局の建設に伴う調査であり、平成29年1月11日に実施され、開発面積4㎡のうち2㎡を調査区として設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

泉館跡は、新田川河口城北岸に展開する低丘陵上に築城された中世城館である。過去に1度試掘調査が実施されており、平安時代の住居跡や中世の根小屋と推定された掘立柱建物跡、井戸跡が確認されている。調査は、店舗等建設工事計画に基づき実施し、平成29年2月22日に実施し、開発面積1,285㎡のうち、調査区を16㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

陣ヶ崎A遺跡は雲雀が原扇状地の中央に位置する。本遺跡は竹島國基氏による踏査により石器が採取された遺跡である。調査は過去に調査は行われているが、遺構及び遺物は検出されていない。調査は宅造成工事を起因とするものであり、開発面積1,513㎡のうち、調査区を60㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

寺内本屋敷地区は真野川南岸の自然堤防上に位置する。本開発予定地近辺において、平成23年度に試掘調査が実施されており、多数のピットが検出されている。平成28年度の調査は、店舗建設工事計画に基づき、平成28年9月15日から同月30日に実施し、開発面積11,146.65㎡のうち、調査区を180㎡設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。



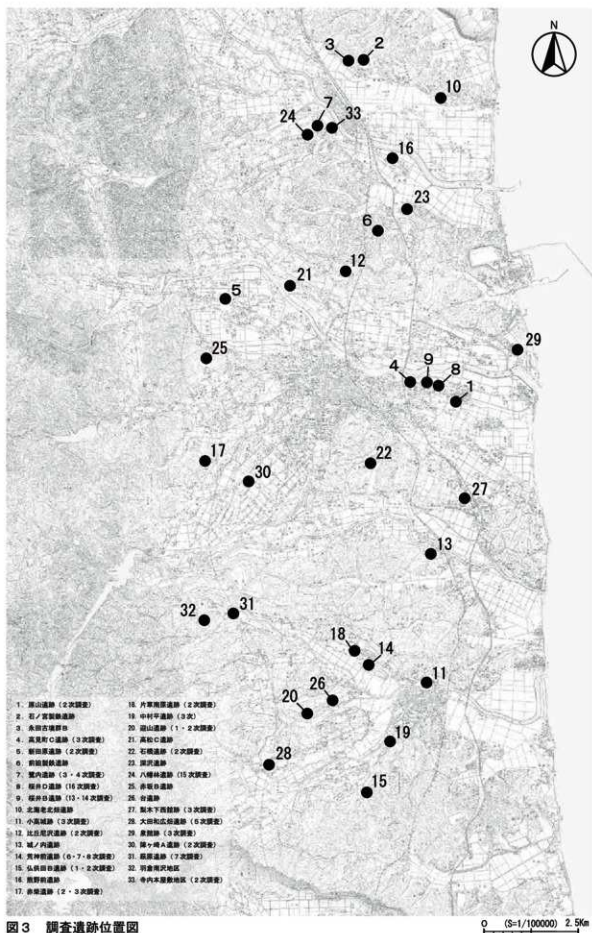


図3 調査遺跡位置図

### 第三章 調査成果

#### 第1節 平成25年度 試掘調査成果

##### 第1項 原山遺跡（2次調査）

1. 調査原因 民間事業所・倉庫建設
2. 所在地 南相馬市原町区上渋佐字北谷地・原田内
3. 調査期間 平成25年6月21日～7月8日
4. 調査対象面積 8,636.28㎡
5. 調査面積 200㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 川田 強
7. 調査成果 開発対象地のうち、建物基礎掘削が遺構面に到達する2ヶ所にA地区、B地区として調査区を設定して実施した。調査は、建物建設予定地全体の表土を除去し、遺構分布状況を把握した。この上で、開発に伴う掘削範囲が建物基礎部分のみの狭小な面積であることから、当該部分については、遺構の掘り下げを行う立会調査を実施した。調査は、表土下約30cmで確認した黄褐色粘土層を遺構確認面として進めた。

なお、本調査内容については「南相馬市内遺跡発掘調査報告書8」（南相馬市教育委員会 2015）で概要を報告しているが、整理調査の進展にあわせ、改めて報告をするものである。

SI01(図7・8)

1辺5m以上の規模を測る竪穴住居である。SI02、SK03に切られる。SI06との重複関係は不明であるが、SI06より古い遺構であると判断される。遺構の深さは約20cmを測り、堆積土は住居埋没後の1層、黒色土(2～4a層)、1次堆積の黄褐色土(4b～

9層)に大別される。掘削調査区南側の壁際に周溝と高さ約10cmの周堤を伴う貯蔵穴と考えられるSK01が確認された。深さ18cmを測るP1は柱穴と推定される。



図4 原山遺跡位置図

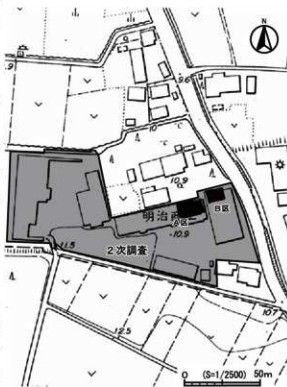


図5 調査区位置図

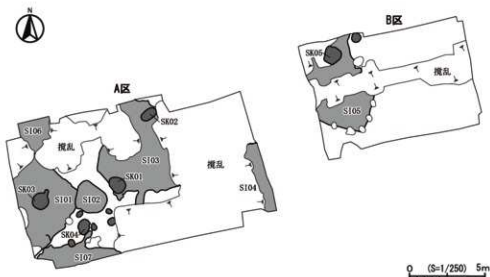


図6 原山遺跡2次調査状況図

図12はSI01出土遺物である。SK01からは4・6・8・10・12が、SK01の上面からは16が出土している。4b～9層上層からは1・9、同層中から2、2～4a層から3・13・14が出土している。15は覆土上面からの出土である。坏は口縁が直立気味に立ち上がるものを中心とし、脚部がラッパ状に開く高坏(16)などが出土している。脚部がハの字状に開く高坏(11)や頸部が屈曲する甕(5)などは古い様相を呈するが、主体となる出土遺物から古墳時代中期前半の所産と考えられる。(註1)

#### SI02(図7)

A区中央で確認した。掘り下げた調査はしていないが、遺構確認時に住居跡と判断したものである。詳細は不明であり、長軸1.5mしかないことから、土坑の可能性もある。

#### SI06(図7・8)

A区の北側調査区端で部分的に確認された。攪乱により切れ、規模等は不明だが、カマドの一部が検出された。遺構の深さは約20cmを測り、わずかにカマドソデと燃焼部が確認された。このことにより検出部分は住居東側壁付近にあたることが推定される。

遺物はカマドから図13-13、床面から同図12が出土している。いずれもロクロ整形形で、13は底部外周回転ヘラ削りで糸切り痕を残す。9世紀前半の所産と考えられる。

#### SI07(図7・8)

A区南側で、北側に位置するカマドを伴う住居を検出した、東西約4.5mを測る堅穴住居跡である。煙道部分は壁から約80cmの長さがあるが、開発による掘削が及ばないため、上面確認のみに留めている。遺構の深さは約30cmを測り、黄褐色土を中心とする。カマドは床面から約20cmの掘り込みを持ち、下面は黄褐色粘土層の基盤となる砂礫層である。

図13-14～20、図14-1～9に出土遺物を図示した。床面から図13-15、カマドソデ下から同図14・19、カマド内から同図17・18、図14-5・6が出土している。いずれも底部回転ヘラ削りが施される。その他は上層からの出土である。墨書のある破片(図14-1～7)が多いことが特徴的である。同図2・3は底面は静止ヘラ削りであるが、2は体部

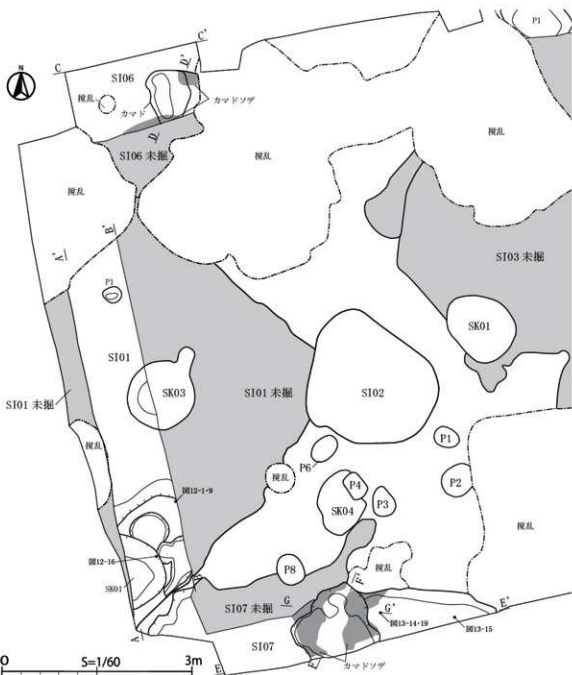
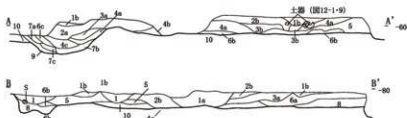


図7 SI01・06・07平面図

下半回転ヘラ削り、3は体部下半は手持ちヘラ削りが施される。また、須恵器甕(同図8)、須恵器瓶の底部破片(同図9)も出土している。出土遺物から9世紀前半の所産と考えられる。

SI03(図9)

A区中央で確認した東西、南北軸とも約4.8mを測る方形を呈する竪穴住居である。開発による掘削は北側の一部であったため、大部分が上面確認のみとなっている。西側には住居に伴う掘り込みが一部見られ、南側には住居外に溝が伸びている。上面観察によりカマドが確認できなかったことから、攪乱により切られている東側にその位置が推定される。



## S101土層説明

- 1a 黒色土 粘性弱。締り弱。所々φ5mm以下のロームブロック、焼土ブロックをまばらに含む(土器有り) SK03層土。
- 1b 暗灰褐色土 粘性弱。締り中。全体にローム粒を均一に含む。
- 2a にぶい黄褐色土 粘性中。全体にφ3cmのロームブロックを多量に含む、所々に褐色土、黒色土をまばらに含む。
- 2b 黒色土 粘性弱。締り強。全体に少量のローム粒、焼土を含む。
- 3a 暗灰褐色土 粘性弱。締り中。全体にローム粒を均一に含む、所々にφ1cmのロームブロックをまばらに含む少量の炭化物有り。
- 3b 黒灰褐色土 粘性弱。締り弱。全体にローム粒を均一に含む。
- 4a 灰褐色土 粘性中。締り弱。全体にφ5mm以下のローム粒を均一に含む。
- 5 にぶい黄褐色土 粘性弱。締り中。全体にφ5mm以下のローム粒を多量に含む、所々に焼土、炭化物、土器を含む。
- 6a 暗黄褐色土 粘性弱。締り中。全体ににぶい黄褐色ブロック(φ3cm)、ロームブロック(φ3cm)をまばらに含む。
- 6b 黒灰褐色土 粘性弱。締り弱。全体にφ5mm以下のローム粒を含む。
- 6c にぶい黄褐色土 粘性中。締り弱。全体にローム粒を多量に含む。
- 7a 灰白色粘土ブロック 粘性強。締り強。
- 7b 暗灰褐色土 粘性中。締り弱。全体にφ5mm以下のローム粒をまばらに含む。土器を含む。
- 7c 灰白色粘土ブロック 粘性中。締り強。
- 8 にぶい明黄褐色土 粘性中。締り中。全体に多量のローム粒を含む、所々に少量の炭化物を含む。
- 9 にぶい黄色土 粘性弱。締り弱。全体にローム粒を多量に含む。
- 10 黄褐色粘土 地山

## S106土層説明

- 1 にぶい褐色土 粘性弱。締り弱。全体にφ5mm以下のローム粒を含む、所々に焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土 粘性弱。締り中。所々にローム粒、炭化物を含む。
- 3 黄褐色土 粘性弱。締り強。全体に暗褐色土、炭化物、焼土を含む。臨床。

## S101カマド土層説明

- 1 黒褐色土 粘性弱。締り弱。焼土粒を多量。炭化粒多量。ローム粒、ロームブロック微量。
- 2 黒褐色土 粘性弱。締り弱。焼土ブロック多量まだらに含む。ロームブロック含む。ソデ崩落。
- 3 赤褐色土 粘性弱。締り弱。暗褐色土をまだらに含む。焼土中心。ソデ構築土。
- 4 暗褐色土 粘性中。締り中。上位に黄褐色土ブロック状を含む。焼土粒微量。ソデ構築土。
- 5 暗褐色土 粘性中。締り中。ロームブロック、部分的、焼土微量。
- 6 暗褐色土 粘性中。締り中。ローム粒。全体的に少量。少レキ。φ1~3cm少量。焼土粒微量。

## S107カマド土層説明

- 1 暗褐色土 粘性中。締り中。ロームブロックφ3cm以下まだらに混じる。焼土粒微量。ソデ崩落。
- 2 暗褐色土 粘性中。締り中。灰白色粘土、焼土ブロックがまだらに含む。カマド天井崩落土。
- 3 暗褐色土 粘性強。締り強。黄褐色粘土ブロック上位を含む。レキφ15cm含む。下部まだらに焼土粒。焼土ブロック多量を含む。カマド構築土。
- 4 暗褐色土 粘性やや弱。締りやや弱。焼土粒多量。φ3cm。焼土ブロック多量。炭化粒微量。
- 5 黄褐色土 粘性強。締り強。ローム粘土。被熱ブロック混じる。カマド構築土。
- 6 黄褐色土 粘性やや弱。締りやや弱。暗褐色土微量に混じる。
- 7 暗褐色土 粘性中。締り中。ローム粒。焼土粒少量含む。カマド構築土。

## S107土層説明

- 1 上層から2cm~5cmは砕石。その下層は黒褐色土。粘性弱。締り中。全体にφ5mm以下のロームブロックをまばらに含む。所々に褐色土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。灰土。
- 1 にぶい黄褐色土 粘性弱。締り中。全体にφ5mm~1cmのロームブロックとローム粒を均一に含む。所々に炭化物粒をまばらに含む。
  - 2 にぶい黄褐色土 粘性弱。締り弱。全体にφ5mm以下のローム粒を多量に含む。所々に焼土ブロック(φ5mm)をまばらに含む。
  - 3 にぶい黄褐色土 粘性弱。締り中。層の上面に厚2cmの黄色粘土面があり、下層には黄灰色土に焼土ブロック、炭化物を含む土が混入する。カマド構築部。

図8 原山遺跡S101・S106・S107断面図

SK01・02に切られる。遺構の深さは約40cmを測り、灰褐色土を主体としている。

遺構上面から図13-1~3が出土しており、1・3は重なって出土している。いずれも

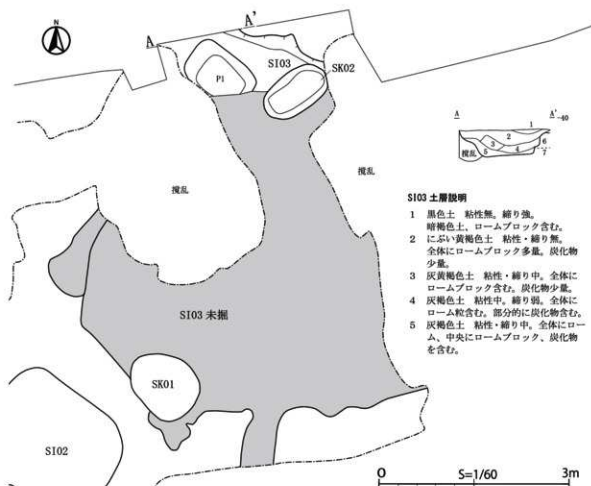


図9 S103 平面図及び断面図

**S103 土層説明**

- 1 黒色土 粘性無。締り強。
- 2 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 3 灰黄褐色土 粘性・締り中。全体にロームブロック含む。炭化物少量。
- 4 灰褐色土 粘性中。締り弱。全体にローム粒含む。部分的に炭化物含む。
- 5 灰褐色土 粘性・締り中。全体にローム、中央にロームブロック、炭化物を含む。

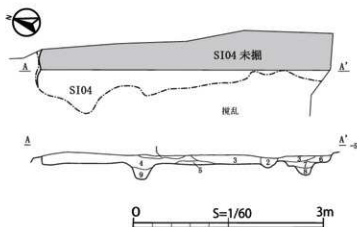


図10 S104 平面図及び断面図

**S104 土層説明**

- 1 黒褐色土 粘性中。締り弱。ローム粒全体的に少量。ロームブロック部分的に微量散。
- 2 黒褐色土 粘性弱。締り弱。ローム粒、ロームブロック、全体的に少量。攪乱。
- 3 暗褐色土 粘性中。締り中。ローム粒、炭化物全体的に含む。上位微粒化。炭化物部分的に含む(φ5cm)。
- 4 暗褐色土 粘性中。締り中。ローム粒、全体的に微量。炭化物微粒。炭化物部分的に含む。
- 5 黄褐色土 粘性強。締り強。ロームブロック(φ35~10cm)主体層。洩汰が悪い。
- 6 暗褐色土 粘性中。締り中。炭土粒、ローム粒・ロームブロックラミナ状に多量。炭化粒(φ3~5cm)少量ラミナ状に含む。
- 7 暗褐色土 粘性中。締り中。炭土粒、ローム粒、炭化粒。ラミナ状に少量含む。
- 8 黄褐色土 粘性強。締り強。ロームブロック主体層。洩汰が悪い。
- 9 暗褐色土 粘性中。締り中。4層に近いが、ややローム粒、ロームブロックを多く含む。

体部下半に手持ちヘラ削り、回転ヘラ削りが施される内黒の坏である。これらの出土遺物から9世紀前半の竪穴住居と考えられる。

**S104(図10)**

A区東端で確認された竪穴住居である。わずかに北側に壁が確認され、その他は調査区

外または攪乱によって削平されている。長軸4.5m以上を測り、深さは約20cmである。炭化物を多く含む暗褐色土を基調とする。ロクロ整形の底部回転ヘラ削りで内面黒色処理の土師器坏(図13-5)、内面黒色処理が施されない手持ちヘラ削りのロクロ整形の坏(同図4)が出土しており、平安時代の所産と推定される。

#### SI05(図11)

B区で確認された竪穴住居である。SK05に切られる。北側は別遺構が重複している可能性がある。覆土は褐色土を基調とし、深さは約12cmと浅い。図13-6～12、図14-12

が出土遺物である。床面からは図13-9・10が出土し、その他は上層、上面からの出土である。図13-6を除き古墳時代中期前半の土師器であり、本住居の構築年代を示している(註1)。9の甕はナデ後ミガキ調整を呈し、長胴化している。図14-12は甕であり、外面はナデ後ミガキ調整が施される。11の柱状中空の高坏脚は裾部が明瞭に屈曲する。10の結合器台の脚部は丁寧なミガキが施されるが、坏部はミガキ調整が明確ではない。

#### SK05(図11)

B区のSI05を切る土坑である。長軸110cmを測り、上面は攪乱によって大きく削平されているが、遺構確認面からの深さ58cmである。規模が比較的大きいことから、人為的に埋土は確認していないが、掘立柱建物の柱穴の可能性もある。土坑内からは図14-10、11が出土している。10は底面が静止糸切り、11が回転糸切り未調整である。SI03・07出土遺物と比較し、底径が小さく体部下半に調整が施されないことからこれらに後続する9世紀中葉から後半の時期に位置づけられる。

#### その他の遺構・遺構外出土遺物(図14)

SK01～04の土坑群ならびにその他ピット群は検出された住居等を切るものが多い、詳細は不明である。図14-13～20はB区の遺構外出土遺物である。14・15は弥生時代中期後半、13・18は古墳時代中期の坏である。17は平安時代の筒型土器、19は墨書を持つ底面静止糸切りが施される坏、20はロクロ整形の甕である。

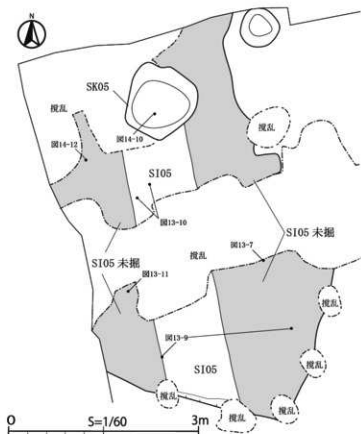
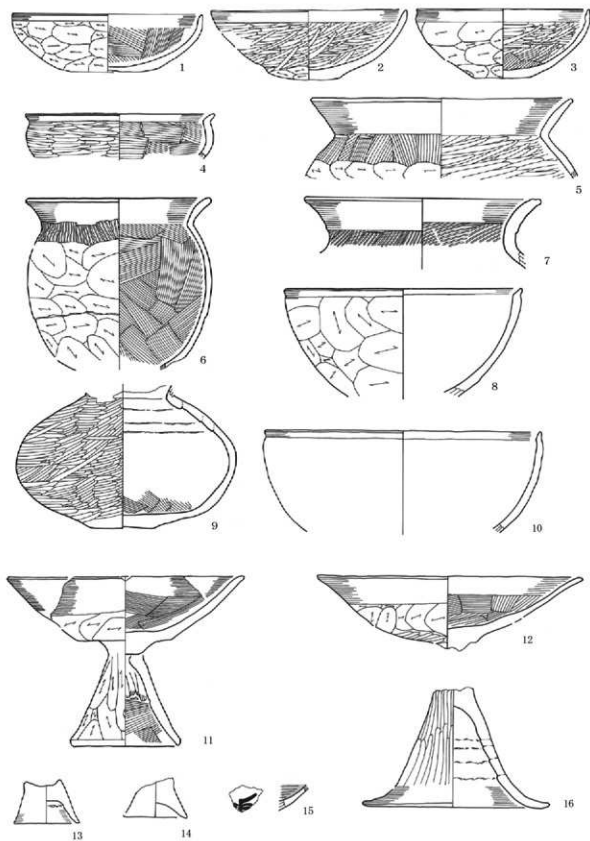


図11 SI05平面図



0 (1/3) 10cm

図12 原山遺跡3次調査出土遺物（1）



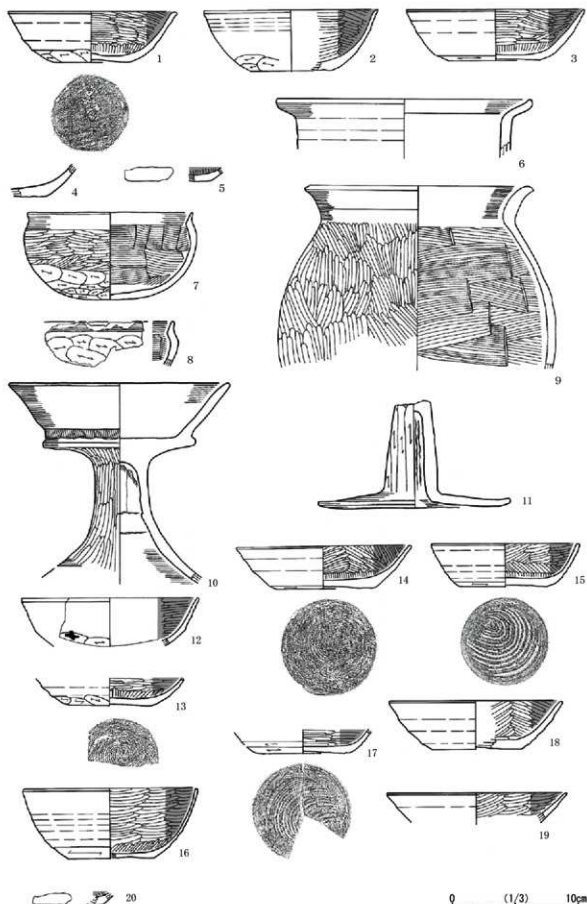


図13 原山遺跡3次調査出土遺物(2)

第1項 原山遺跡（2次調査）



図14 原山遺跡3次調査出土遺物（3）



写真1 原山遺跡A地区（南西から）



写真2 原山遺跡A地区調査状況（東から）



写真3 原山遺跡S101（南から）



写真4 原山遺跡S101東側断面



写真5 原山遺跡S103断面



写真6 原山遺跡S104（南から）



写真7 原山遺跡S106断面



写真9 原山遺跡S107土器出土状況



写真8 原山遺跡S107カマド検出状況



写真10 原山遺跡B地区（南西から）



写真11 原山遺跡S105土器出土状況(1)



写真12 原山遺跡S105土器出土状況(2)

## 8. 調査所見

今回の調査は、部分的なものに留まったが、竪穴住居が多く確認され、遺跡の概要を把握することができた。古墳時代中期の住居は2軒検出され、北側に近接する前屋敷遺跡と時期が一致することから、中期前半に限定された時期に集落が広く展開することが明らかとなった。また、平安時代の集落は西側の上渋佐原田遺跡や桜井D遺跡でも確認されており、新田川を望む段丘上に平安時代の住居が幅広く分布することが指摘できる。

註1 S101・05については前報告（「南相馬市内遺跡発掘調査報告書8-平成23・25年度試掘調査報告」南相馬市教育委員会2015）にて、古墳時代の前期としていたが、今回の報告で訂正する。



写真 13 原山遺跡出土遺物 (1)



写真 14 原山遺跡出土遺物 (2)



写真 15 原山遺跡出土遺物 (3)

## 第2節 平成28年度試掘調査成果

### 第1項 石ノ宮製鉄遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区  
永田字永田
3. 調査期間 平成28年4月12日
4. 調査対象面積 73,370㎡
5. 調査面積 48㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、調査対象地内に幅2m×長さ8mの調査区を3箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を実施した。約30cmの表土を除去した時点で礫が混入した暗褐色土の基盤層に達したが、遺構・遺物を確認することはできなかった。



図15 石ノ宮製鉄遺跡位置図

8. 調査所見 今回の試掘調査では、改めた保存協議を要する埋蔵文化財は確認できなかったことから、記録保存等の措置は必要とせず、慎重工事による工事施工が望ましい。



図16 調査区位置図



写真16 2 T調査状況



## 第2項 永田古墳群B

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区永田字永田地内
3. 調査期間 平成28年4月1日～平成28年5月31日
4. 調査対象面積 73,370㎡
5. 調査面積 134㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、古墳の周囲ならびに周辺地形の把握を目的に、合計15箇所に調査区を設け、遺構・遺物の把握に努めた。

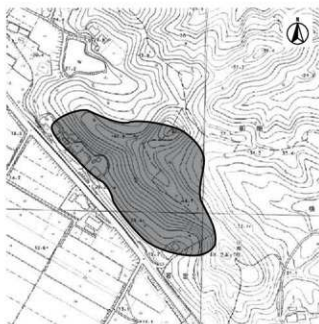


図17 永田古墳群B位置図

- 1号墳：1号墳は丘陵尾根上に墳丘主軸をのせた形で造営された前方後円墳である。

後円部の形状を仔細に観察すると前端部が直線状に巡る様子や、墳頂平坦面から裾部に向かって稜線のような地形が観察できることから前方後方墳の可能性も残されているが、現段階では前方後円墳として取り扱っておく。1号墳には後円部と前方部の前端部分に小規模な調査区を1箇所ずつ設けて、墳丘裾部と周溝の確認に努めたが、墳丘の周囲では表土の直下で基盤層に達し、周溝等の外表施設が伴わないことが確認された。また古墳に伴う遺物の出土も認められなかった。

- 2号墳：古墳群が立地する丘陵の最高所に位置する円墳である2号墳では、墳丘部に十字に直交する調査区を4箇所、南側の平坦面に1箇所の合計5箇所に調査区を設けて作業を実施した。墳丘部に設けた5～8Tでは表土直下に締まりの強い墳丘面と思われる土層に達し、墳丘下位には墳丘崩落土と思われる褐色土が堆積する様子を確認した。なお、本古墳は墳丘積土の流出のためか、確実な傾斜変換線を認識できずに丘陵面に移行している状況にあり、墳頂平坦面ならびに墳丘裾部の傾斜変換線の位置を断定することはできなかった。

また、墳頂平坦面には拳大の川原石が約4m四方の範囲で検出された。この川原石が本古墳に確実に伴うものであるかは不明である。

古墳の南側に設けた11Tでは表土直下で黄褐色の基盤層に達した。基盤層上面では幅約2m、深さ約20cmの溝状の遺構が確認されており、2号墳に伴う周溝の可能性が高い。

- 9・10T：9・10Tは調査対象区内に長さ約30m前後の土手状の高まりを認めたため、高まりの主軸線に直交する調査区を設定した。調査の結果、表土直下に基盤層となる黄色ロームがあり、自然地形であることが判明した。おそらくは土手の北側における植林の際の地形造成の残りである可能性が高い。

- 3号墳：調査対象区中央付近に位置する円墳である。本古墳は、1号墳が造営された丘陵の尾根筋が、4号墳へ向かって下る斜面部に造営されているため、斜面部に瘤状の高まりと

して認識された。墳丘の直径はおおよそ7m前後と思われる。試掘調査では墳丘を十字に交差するトレンチを設定して、墳丘積土の確認に努めた。調査の結果、積土は基盤層となる黄色ロームを互層状態となるように水平に積み上げている様子が確認され、墳丘裾部には尾根筋を切断するように周溝状の溝が存在していることが確認された。調査の過程では土師器の高杯片1点が出土した。

- 4号墳：調査対象区のも最西側の丘陵突端に位置する古墳である。地形はこの古墳を過ぎた辺りから緩やかに標高を下げたのち急傾斜面に変化している。古墳は高さ約2m前後を計測し、平面形は瓢箪型を呈することから前方後円墳の可能性が高いが、墳丘の崩壊が著しいためか、前方部・後円部の方向も判断しがたい。また墳頂平坦面には明瞭な比高差もなく、古墳の詳細は不明である。試掘調査では墳丘主軸線上の墳裾に1箇所ずつ調査区を設けたが、周溝等の外表施設は確認できなかった。また、遺物等の出土は認められなかった。
8. 調査所見 最後に、今回新たに発見された永田古墳群Bについて、真野川流域の古墳等の内容を概観してまとめたい。なお、永田古墳群Bの各古墳の詳細や規模等については、平成29年度に測量調査を予定していることから、詳細は別途報告することとする。

今回、真野川下流域に展開する低丘陵の頂上で、前方後円形もしくは前方後方形の古墳2基と円墳2基が確認された。このうち1号墳は後円部と前方部の墳頂平坦面の高低差に明らかな比高差が認められ、また後円部と前方部の接点には明らかな隆起斜道が確認できるなど、比較的古式の様相を示しており、古墳時代前期に位置づける要素が多く見られる。

一方、2号墳は丘陵の最高所に位置した円墳で、墳頂平坦面には拳大の川原石を敷き詰めた施設を伴っている可能性がある。墳丘自体は積土の流出が著しく傾斜変換線の認識が難しいが、1号墳よりも遡るものとは考えにくい。3号墳は丘陵斜面に張り付くように造営された小規模な円墳である。積土や周溝状の落ち込みが見られたが、埋葬施設は確認できなかった。4号墳は丘陵の最西端に造営された小型の前方後円墳もしくは前方後方墳である。墳丘積土の流出が著しく墳形の特定が難しいが、古墳の墳頂平坦面の比高差はほとんど見られず、1号墳とは明らかに異なった特徴を示している。

このように、永田古墳群Bでは古墳時代前期から後期にかけて長期的な古墳の造営を行っていた可能性が示唆される。古墳の造営開始時期は1号墳の古墳時代前期頃を端緒とし、周辺にある古墳時代後期に造営が行われた横手古墳群よりも、遥かに古い時期に造営が開始されたものと考えられ、以後、2・3・4号墳の各古墳の造営が継続したものと考えておきたい。このように見ると、永田古墳群B内では最も古い時期と考えられる1号墳の被葬者は前方後円墳もしくは前方後方墳という首長墓となるには十分な形状の墳形が採用されており、真野川流域の生産力を背景に勢力を伸長させた有力者像がうかがえる。一方、真野川下流域の低地のなかに発達した微高地上には、円墳群で構成される柚原古墳群が発掘調査が行われており、周溝内部からは塩釜式土器が出土し、この古墳群も古墳時代前期に位置づけられる遺跡である。

真野川流域において古墳時代前期に位置づけられる古墳群は、上記の2遺跡となってお

り、両者の関係については今後の調査事例の増加と、慎重な調査研究が必要である。

一方、これらの古墳群の造営基盤となる集落遺跡については、真野川中流域の河岸段丘上にある八幡林遺跡（真野古墳群）や南海老南町遺跡などで古墳時代前期の堅穴住居跡が確認されているが、永田古墳群周辺では古墳時代前期の集落遺跡は未発見である。

近年では、同じ真野川流域の低地内に発達した自然堤防上の微高地面で、大規模な溝を伴う集落遺跡（反町遺跡・桶師屋遺跡）などの発見が相次いでいる。これらの遺跡は南小泉式土器を伴う堅穴住居跡で構成されており、古墳時代中期に位置づけられることは間違いない。加えてこれらの住居跡が大規模な溝で囲繞されている可能性も示唆されており、首長居館・豪族居館などと称される、有力者の拠点的な施設であった可能性がある。

このように見ると、真野川流域ではこれまでにあまり把握されていなかった古墳時代全般を通じた社会状況が徐々に把握されつつあり、個々の遺跡が何らかの関係性をもって存在していた状況が垣間見えるが、一方でこれらの遺跡においては、考古学的手法に基づく本格的な発掘調査が実施された遺跡は極めて少なく、残された課題は決して少なくないのが現状である。今後、真野川流域といった広域的な視点での検討が必要であると考えている。

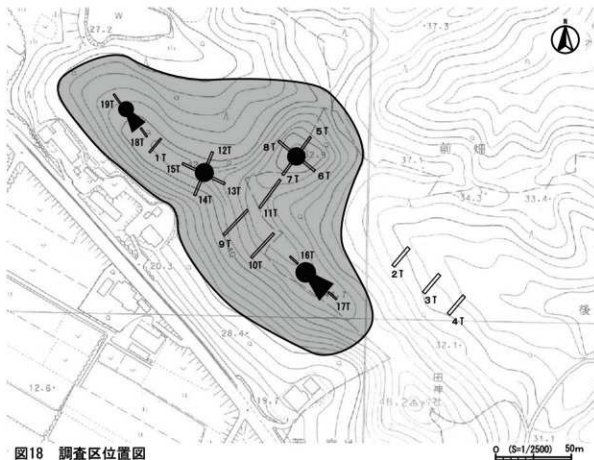


図18 調査区位置図

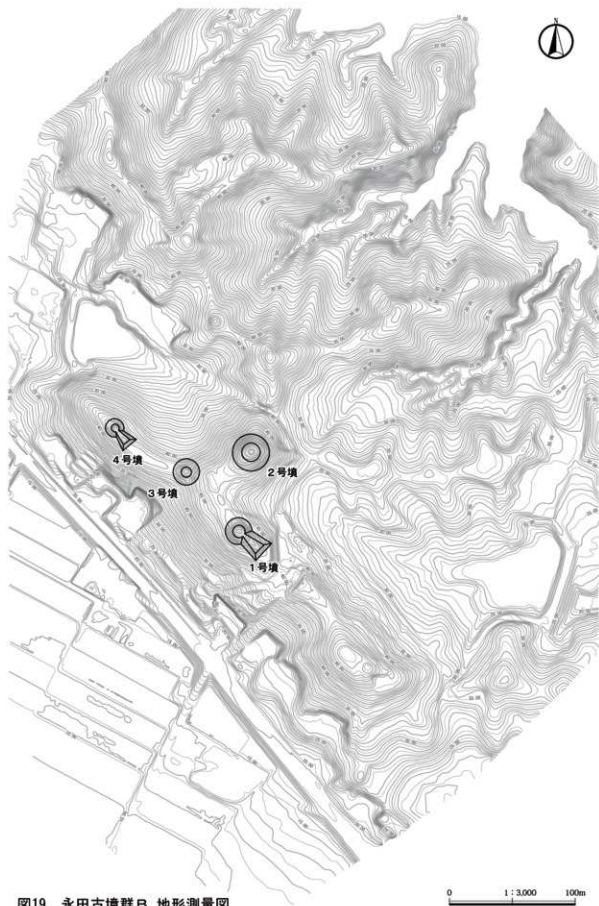


图19 永田古墳群B 地形測量図

## 第3項 高見町C遺跡(3次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区高見町一丁目地内
3. 調査期間 平成28年4月1日～平成28年5月31日
4. 調査対象面積 581.54㎡
5. 調査面積 3㎡
6. 調査担当 主査 林 紘太郎  
埋蔵文化財調査員 濱 須 脩
7. 調査成果 試掘調査では、開発予定地内に

1m×1mの調査区(1T～3T)を3箇所設置し、埋蔵文化財の確認を行った。1Tでは、厚さ30cmの表土を除去すると黄褐色土の基盤層が確認されたが、遺構等は検出されなかった。

2Gでは厚さ60cmの表土を除去したところで基盤層の下位に位置する礫層を確認した。1T同様に遺構等は確認されなかった。3Tでは、厚さ70cmの表土を除去したところ、厚さ50cmの土師器片が含まれる黒褐色土が堆積していた。この層を除去すると2Tにおいて確認された礫層を検出した。

8. 調査所見 今回の調査により、3Tにおいて確認された黒褐色土の堆積層から、3T周囲に遺物包含層、若しくは遺構が展開すると推定される。そのため、3T周囲において掘削を伴う工事を施工する場合には保存協議を要する。また、保存協議により、埋蔵文化財に影響が及ぶと判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査を要する。



図20 高見町C遺跡位置図

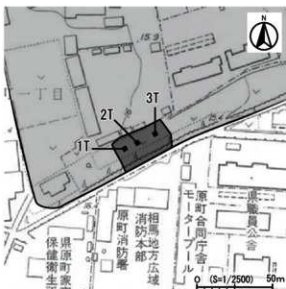


図21 調査区位置図



写真17 3T調査状況

#### 第4項 新田原遺跡（2次調査）

1. 調査原因 宅地造成等
2. 調査地点 南相馬市原町区信田沢字新田原地内
3. 調査期間 平成28年5月18日～平成28年5月30日
4. 調査対象面積 27,600㎡
5. 調査面積 135.4㎡
6. 調査担当 主 査 林 紘太郎
7. 調査成果 試掘調査では、開発予定地内に2m×10mの調査区を6箇所、1m×1mの調査区を5箇所設定し、埋蔵文化財の確認を行った。各調査区とも厚さ20cm～70cmの表土が見られ、これらを除去したところ、基盤層である黄褐色土（1・2T、7～11T）、礫を含む褐色土（3～6T）を確認した。遺構等は検出されなかった。
8. 調査所見 調査では、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されておらず、発掘調査等の措置は必要ないが、慎重な工事施工が望ましい。



図22 新田原遺跡位置図



写真18 3T調査状況



図23 調査区位置図

## 第5項 前迫製鉄遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区川子字宮田内地内
3. 調査期間 平成28年4月12日～平成28年5月20日
4. 調査対象面積 10,271㎡
5. 調査面積 89.5㎡
6. 調査担当 主査 林 紘太郎  
埋蔵文化財調査員 濱 須 脩
7. 調査成果 今回の調査では、本開発予定地内の表面調査及び13箇所の調査区を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。本開発予定地は東方向に大きく開析された谷が2箇所ある。そのうち、南側の谷に廃滓場が確認され、奈良・平安時代ものと考えられる羽口片や鉄滓が散布していた。また、北側に位置する谷には、木炭窯等が埋没した後に形成される窪み状の地形が多数確認され、それらに調査区を設定し、遺構の確認を実施した。調査区のうち、1・3～7・10Tにおいては、炭化物や焼土を含む黒色土若しくは黒褐色土の堆積層が確認された。これら調査区の斜面上位に木炭窯跡が存在すると考えられる。また、12Tでは木炭焼成土坑が確認された。

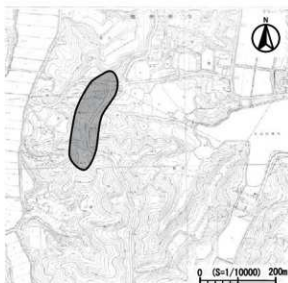


図24 前迫製鉄遺跡位置図

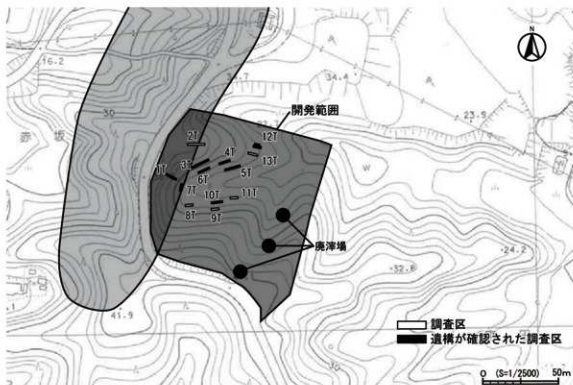


図25 調査区位置図

8. 調査所見 今回の調査により、本開発予定地内には、奈良・平安時代の鹿滓場、木炭窯跡及び木炭焼成土坑の存在することが明らかとなった。

このような調査結果から、本開発予定地内において掘削を伴う工事を施工する場合には、保存協議を要し、保存協議の結果、埋蔵文化財に影響があると判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査が必要となる。



写真19 1T調査区断面



写真20 3T調査状況



写真21 4T調査状況



写真22 10T調査状況



写真23 12T木炭焼成土坑確認状況



写真24 鹿滓場確認状況(●…鹿滓場)



## 第6項 鷺内遺跡(3・4次調査)

1. 調査原因 県立特別支援学校建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字鷺内地内
3. 調査期間
 

3次調査	平成28年4月21日～5月16日
4次調査	平成29年1月25日～3月10日
4. 調査対象面積 16,786㎡
5. 調査面積
 

3次調査	62㎡
4次調査	258㎡
6. 調査担当
 

3次調査	主任文化財主事 佐川 久
4次調査	主任文化財主事 佐川 久
	埋蔵文化財調査員 横田竜巳
	埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 3次調査の試掘調査では、調査対象地内に4箇所の調査区を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。試掘調査の結果、1・3Tで古代の遺物包含層を確認した。1・2T、1Gで土坑、ピットを確認した。1Tでは古代の遺物包含層を切るかたちで土坑が確認されており、古代以降の所産と考えられる。各調査区で確認されている土坑・ピットは、1Tで確認されている土坑と覆土が類似していることから、古代以降のものと考えられる。



図26 鷺内遺跡位置図

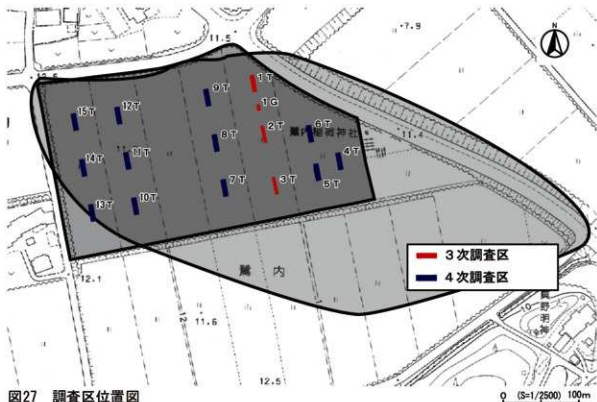


図27 調査区位置図

4次調査の試掘調査では、開発予定地に2×10m<sup>2</sup>の調査区を基本として、12箇所設定して埋蔵文化財の有無を確認した。5Tでは、縄文時代晩期の貯蔵穴が確認された。6Tでは奈良・平安時代の遺物包含層が確認され、その下位には縄文時代の遺物包含層が確認された。また、縄文時代の遺物包含層を切る形で堅穴状遺構が確認された。8Tでは隅丸方形の柱穴をはじめ、複数のピットが確認されており、奈良・平安時代の掘立柱建物が所在していた可能性が高い。その他の調査区では、遺構は確認されなかった。

8. 調査所見 3次調査の試掘調査では古代の遺物包含層、土坑・ピットが確認されたことから、この範囲において造成を伴う土木工事を行う場合には、保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。4次調査の結果、8Tより東側には遺構・遺物包含層が存在していることから、遺構確認面まで掘削が及ぶ工事が施工される場合には改めた保存協議を要するが、10～15Tでは明らかな埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた保存協議は要せず、慎重工事により施工されることが望ましい。



写真25 調査前状況



写真26 1T調査状況



写真27 1G調査状況



写真28 2T調査状況



写真29 3 T 調査状況



写真30 3 T 土層断面



写真31 5 T 調査状況



写真32 5 T 貯蔵穴調査状況



写真33 8 T 調査状況



写真34 8 T 遺構検出状況



写真35 12 T 調査状況



写真36 12 T 土層断面

### 第7項 桜井D遺跡 (16次調査)

1. 調査原因 罹災者住宅移転
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐字原田地区
3. 調査期間 平成28年6月6日～  
平成28年6月7日

4. 調査対象面積 468㎡
5. 調査面積 12㎡
6. 調査担当 主任文化財事主 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の建物建設箇所に調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

- 試掘調査では、黒色土や腐葉土を含む現地表面から深さ約40cmの地点で、基盤層に達した。上位の堆積土からは少量の土師器・須恵器片が出土したが、明確な遺構は確認できなかったことから、出土した土器類は周辺付近からの散布であると思われる。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、直接保存協議を要する埋蔵文化財は確認できなかったことから、発掘調査等の必要はなく、慎重工事により工事施工されることが望まれる。



図28 桜井D遺跡位置図



図29 調査区位置図



写真37 調査着手前



写真38 調査状況

## 第8項 桜井B遺跡(13次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐原畑地内
3. 調査期間 平成28年6月14日～平成28年6月15日
4. 調査対象面積 846.03㎡
5. 調査面積 38㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩  
主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、調査対象地内に2カ所の調査区を設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、2Tにてピットを1基検出し、ピット内からは古墳時代の甕の土器片が出土した。しかし、このピットに関連する遺構の広がり確認されなかった。
8. 調査所見 調査の結果、遺構面に掘削が及ぶ場合は保存協議が必要となるが、今回の開発計画では、柱状改良による基礎掘削のため掘削範囲が狭小な面積であることから改めた発掘調査は行わず、工事立会場で対応するものとする。



図30 桜井B遺跡位置図

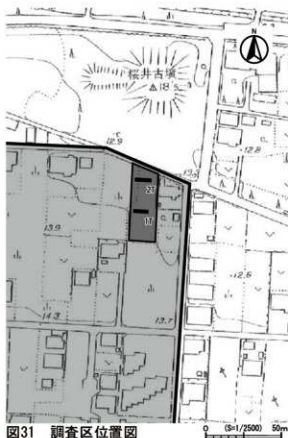


図31 調査区位置図



写真39 1T調査状況



写真40 2T調査状況

第9項 北海老北畑遺跡

1. 調査原因 墓地造成
2. 調査地点 南相馬市鹿島区北海老北畑地内
3. 調査期間 平成28年6月17日～平成28年7月19日
4. 調査対象面積 36,000㎡
5. 調査面積 195㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、調査対象地内に23箇所の調査区を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。試掘調査の結果、2 T付近で斜面に流出した廃滓層を確認した。また丘陵尾根筋で古墳2基を確認した。1号墳は墳丘直径約25mの円墳である。2号墳は直径8m程度の円墳である。墳丘北側と南側には周溝が巡ることが確認された。

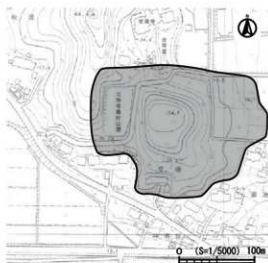


図32 北海老北畑遺跡位置図

8. 調査所見 今回の試掘調査では廃滓場・円墳2基が確認されたことから、この範囲において造成を伴う土木工事を行う場合には、保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。



図33 調査区位置図



写真41 調査着手前(1)



写真42 調査着手前(2)



写真43 1号腐滓土層断面



写真44 1号木炭焼成抗土層断面



写真45 1号木炭焼成抗完掘状況



写真46 1号墳北側周溝範囲



写真47 1号墳墳丘(北から)



写真48 2号墳北側周溝

第10項 小高城跡（3次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区小高字城下
3. 調査期間 平成28年6月15日
4. 調査対象面積 912.51㎡
5. 調査面積 50㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 藤木 海
7. 調査成果 今回の調査は県指定史跡小高城跡の範囲内にあたる。調査では開発範囲内に2ヶ所の調査区を設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査区において観察された堆積土は、現地表面から45cmまでが旧宅地の盛土層、地表下95cmまでが宅地造成以前の土地利用に伴う旧表土層が確認され、それ以下は河川の氾濫原に形成される細砂層であった。遺構・遺物は確認されていない。

8. 調査所見 今回の試掘調査の結果より、保存協議を要する遺構は確認されていないが、県指定史跡内における開発のため、工事立会により対応することが望ましい。

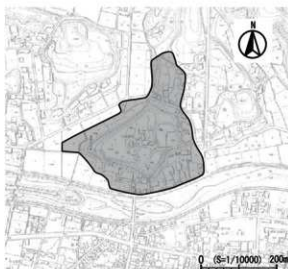


図34 小高城跡位置図

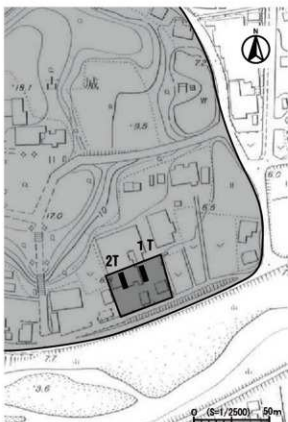


図35 調査区位置図



写真49 1T全景



写真50 2T全景



## 第11項 比丘尼沢遺跡(2次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区上北高平字比丘尼沢地内
3. 調査期間 平成28年6月20日～平成28年7月26日
4. 調査対象面積 166,388㎡
5. 調査面積 248.3㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財主査 佐川 久  
埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区を15ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査の結果、南向き斜面で廃滓場2ヶ所、北向き斜面の標高50m付近にて、木炭窯跡14基を確認した。

木炭窯跡に関しては、9～13Tの調査区内と付近を通る重機搬入路の壁面で検出しており、ほぼ同じ標高に集中してつくられていることが確認されている。

8. 調査所見 調査の結果、本地区内にて古代の製鉄に関連した遺構が確認された。そのため、土砂採取を行う場合には事前に保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査が必要となる。



図36 比丘尼沢遺跡位置図



図37 調査区位置図



写真51 9 T調査状況



写真52 炭窯検出状況(重機搬入路壁面)

第12項 城ノ内遺跡

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南南相馬市原町区高字鍛冶内地内
3. 調査期間 平成28年6月21日～平成28年6月22日
4. 調査対象面積 660.84㎡
5. 調査面積 25㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩  
主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では開発範囲内に

に2ヶ所の調査区を設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、現地表面から20～30cmの深さで基盤層を確認し、基盤層を確認する過程で土師器片・須恵器片等の遺物が出土した。しかし、土器片等の遺物は確認されたが、保存協議を要する遺構は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、保存協議を要する遺構は確認されなかったが、土師器片や須恵器片等の遺物が確認されていることから、工事立会により対応することが望ましい。



図38 城ノ内遺跡位置図

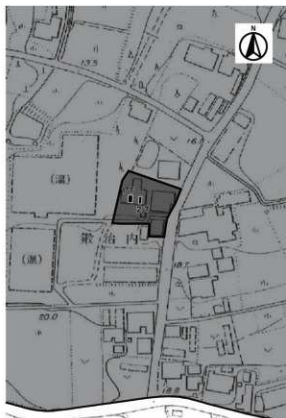


図39 調査区位置図



写真53 1 T調査状況



写真54 2 T調査状況

## 第13項 荒神前遺跡（6次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区片草字西道地内
3. 調査期間 平成28年6月27日
4. 調査対象面積 1,125.60㎡
5. 調査面積 10㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩  
主 査 林 絃太郎
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に調査区を1ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、現地表面から20～30cmの深さで基盤層を確認したが、基盤層を確認する過程の中では保存協議を要する遺構・遺物は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったことから、改めた保存協議、発掘調査等の措置は必要なく、慎重工事により工事を施行することが望ましい。



図40 荒神前遺跡位置図



図41 調査区位置図



写真55 調査前状況



写真56 1T調査状況

第14項 仏供田B遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区上根沢字仏供田内地
3. 調査期間 平成28年6月22日～平成28年6月29日
4. 調査対象面積 10,257㎡
5. 調査面積 36.3㎡
6. 調査担当 主査 林 紘太郎
7. 調査成果 本開発予定地には、径15mの程度の廃滓場が確認され、その周囲に平坦面が形成されていた。調査区は排滓場の周囲に19箇所を設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。調査により地表面から深さ20～50cmで基盤層(黄褐色土)を確認した。19Tに炭層を検出した以外、各調査区とも遺構等は確認されなかった。
8. 調査所見 本開発予定地には、廃滓場等の遺構が確認されており、本開発予定地内において掘削による工事を行う場合は保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。

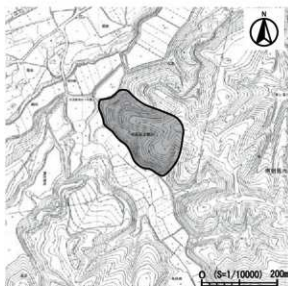


図42 仏供田B遺跡位置図



写真57 19T調査状況

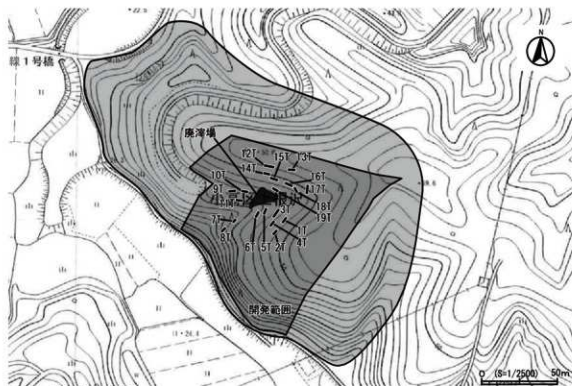


図43 調査区位置図

## 第15項 熊野前遺跡

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区小島田字北畑地内
3. 調査期間 平成28年7月5日
4. 調査対象面積 359㎡
5. 調査面積 14㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩  
主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定



図44 熊野前遺跡位置図

地内に2m×7mの調査区を1ヶ所設定

し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、現地表面から約1mの深さで基盤層を確認した。基盤層に到達するまでの過程で土師器片数点が出土したが、遺構は確認されなかった。また、土師器片よりも下層にて近世のものと考えられる燈明皿が出土しており、このことから当開発予定地が試掘調査以前に行われた開発により、掘削を受けていることが考えられる。

8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財が確認されなかったことから改めた保存協議、発掘調査等の必要はなく、慎重工事により工事を施行することが望ましい。

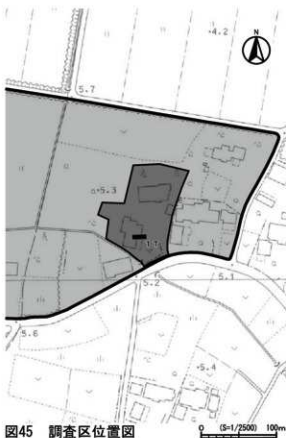


図45 調査区位置図



写真58 調査前状況



写真59 1T調査状況

第16項 赤柴遺跡（2次調査A地点・B地点）

1. 調査原因 土砂採集
2. 調査地点 南相馬市原町区押釜字押釜
3. 調査期間 平成28年7月20・21日
4. 調査対象面積 A地点9,520㎡ B地点9,232㎡
5. 調査面積 A地点14.52㎡ B地点12.77㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 横田竜巳  
文化財副主査 柴田亮平（山梨県支援）
7. 調査成果

**A地点：**調査対象地に調査区3ヶ所を設置して埋蔵文化財の確認を行った。基盤層は現地表面からの深さで確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。

**B地点：**試掘調査対象地に調査区4ヶ所を設置して埋蔵文化財の確認を行った。その結果、現地表面から40cmの深さで基盤層を確認した。1箇所のトレンチから土坑を1基検出し、現代の層から少量の土師器が出土した。

**8. 調査所見** 今回の調査地点では、遺構は時期不明の土坑が1基確認できたのみであり、遺物は出土したものの少量であった。このことから、当該計画に際して発掘調査を必要とせず、慎重に工事施工することが望まれる。



図46 赤柴遺跡位置図

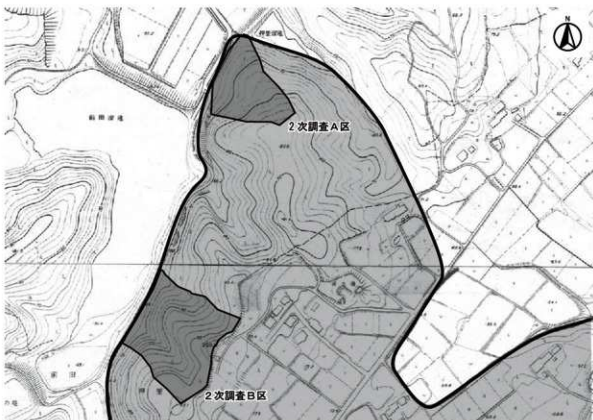


図47 調査区位置図

0 (S=1/5000) 100m

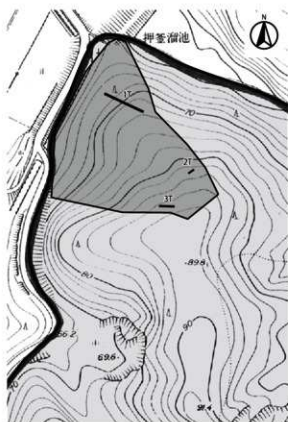


図48 A地区位置図

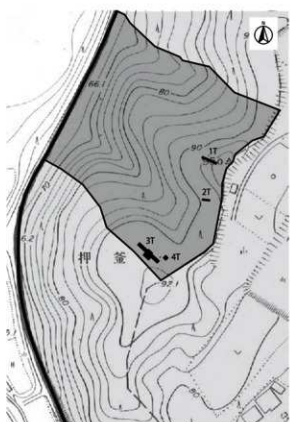


図49 B地区位置図



写真60 A地区1T調査状況



写真61 A地区3T調査状況



写真62 B地区1T調査状況



写真63 B地区3T調査状況

第17項 片草南原遺跡（2次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区片草南原地内
3. 調査期間 平成28年7月11日
4. 調査対象面積 488.64㎡
5. 調査面積 10㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に2m×5mの調査区を1ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、現地表面から約30cmの深さで基盤層を確認した。基盤層に到達する過程で土師器片が11点出土し、遺構が溝1条とピット3基を検出したが、遺構内覆土の特徴から、これらの遺構が古代の遺構ではなく、近世以降の遺構であると判断した。

8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、確認された遺構が近世以降のものと考えられるため、改めた保存協議、発掘調査等の必要はなく、慎重工事により工事を施行することが望ましい。

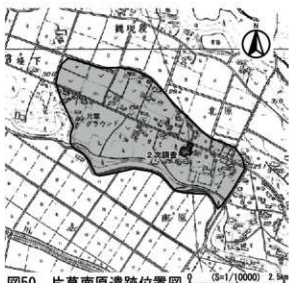


図50 片草南原遺跡位置図

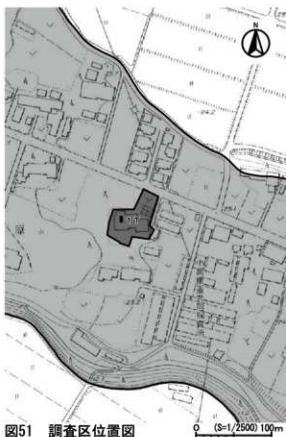


図51 調査区位置図



写真64 調査前状況



写真65 1T調査状況



## 第18項 中村平遺跡（3次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区吉名字中村平地内
3. 調査期間 平成28年8月1日
4. 調査対象面積 159.68㎡
5. 調査面積 16㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に1

箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を

行った。調査では、現地表面から30cmの深さまで掘削して基盤層となる黄色ロームに達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査の結果、本地点においては保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重工事により工事施工することが望ましい。



図52 中村平遺跡位置図



図53 調査区位置図



写真66 1T調査状況



写真67 1T調査区断面

第19項 荒神前遺跡（7次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区片草字一里段地内
3. 調査期間 平成28年8月1日～平成28年8月2日
4. 調査対象面積 1,090.74㎡
5. 調査面積 2.6㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、建物の基礎掘削箇所を避け、合併浄化槽設置箇所のみトレンチを入れるという条件のもと、1m×2.6mの調査区を1ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、0.4m～1mの深さで基盤層を確認したが、基盤層を検出する過程で遺構・遺物は確認できなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、合併浄化槽設置箇所のみ掘削という条件のもと保存協議を必要とする遺構・遺物は確認できなかったが、建物の基礎掘削箇所にて埋蔵文化財が発見される可能性があるため、工事立会による対応が望ましい。



図54 荒神前遺跡位置図

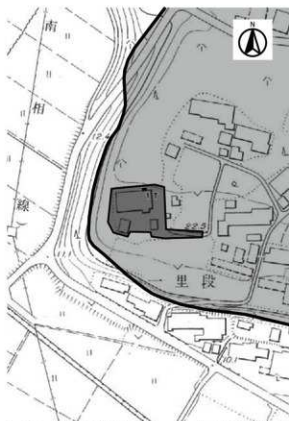


図55 調査区位置図



写真58 調査前状況



写真59 1T調査状況

## 第20項 迎山遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区飯崎字迎山地区
3. 調査期間 平成28年8月9日～平成28年9月14日
4. 調査対象面積 約40,000㎡
5. 調査面積 73㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、事前に行われた表面調査により確認された廃滓場の範囲確認と、その周辺に製鉄関連の遺構が広がるかを確認するため、開発範囲内に幅1mの調査区を17ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。

試掘調査では、谷の形状に沿う形で製鉄炉が1基、廃滓場が9ヶ所、木炭窯跡が2基確認されている。いずれも標高の高い谷頭を中心に確認されており、出土している遺物から8世紀後半～9世紀前半にかけて操業されたものと考えられる。

8. 調査所見 今回の調査では、開発範囲のほぼ全体に製鉄に関連した遺構を確認した。従って、本地区区内で土砂採取を行う場合には事前に保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存を目的とした発掘調査が必要となる。

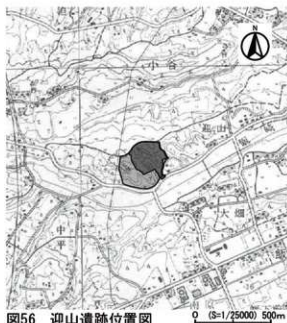


図56 迎山遺跡位置図

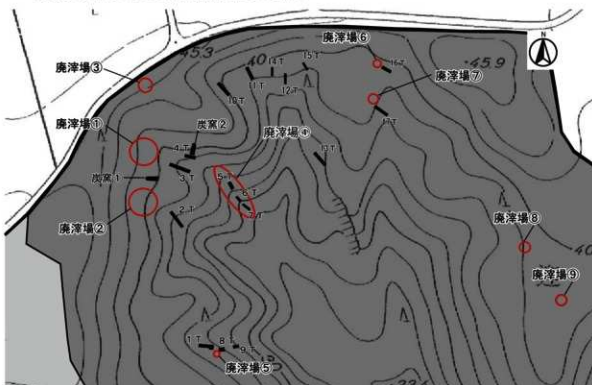


図57 調査区位置図



写真70 調査前状況



写真71 調査前状況



写真72 4T調査状況



写真73 木炭窯検出状況



写真74 1T調査状況



写真75 1T 製鉄炉検出状況



写真76 1T 製鉄炉検出状況



写真77 1T 製鉄炉検出状況

## 第21項 高松C遺跡

1. 調査原因 市道拡幅工事
2. 調査地点 南相馬市原町区上北高平宇高松地内
3. 調査期間 平成28年9月6日～平成28年9月9日
4. 調査対象面積 1303.5㎡
5. 調査面積 12.9㎡
6. 調査担当 主査 林 敏太郎
7. 調査成果 本開発予定地内に調査区を4箇所設定し、埋蔵文化財の確認を行った。各調査区とも地表面から深さ40～70cmのところで基盤層となる黄褐色土の堆積層を確認し、2T以外において遺構等をが確認した。1Tでは竪穴住居跡が2軒検出した。3Tでは竪穴住居跡を1軒、土坑2基、溝跡1条検出した。4Tでは土坑1基、溝跡3条確認した。各調査区の堆積土及び遺構検出面からは土師器片及び須恵器片が出土しており、奈良時代以降の遺構であると考えられる。
8. 調査所見 本開発予定地には保存協議の対象となる埋蔵文化財が存在していることが確認された。そのため、掘削による工事を行う場合は改めて保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。

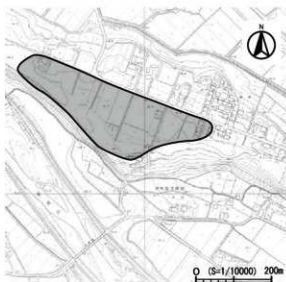


図58 高松C遺跡位置図



図59 調査区位置図



写真78 1T調査状況



写真79 3T調査状況

## 第22項 石橋遺跡（2次調査）

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区牛来字石橋地内
3. 調査期間 平成28年9月14日～平成28年9月16日
4. 調査対象面積 9,975㎡
5. 調査面積 31.6㎡
6. 調査担当 主査 林 敏太郎
7. 調査成果 本開発予定地内の西側南向き斜面には、東西幅80mにわたり平安時代以降の鉄生産に伴う廃滓場が形成されている。それ以外の地点において調査区を7箇所設定し、埋蔵文化財の確認を行った。地表面から深さ20～50cmのところで基盤層となる褐色土の堆積層を確認した。堆積土に羽口片と鉄滓が少量出土する程度であった。また、遺構は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の調査により、本開発予定地には保存協議の対象となる埋蔵文化財が存在していることが確認された。そのため、掘削による工事を行う場合は改めて保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。

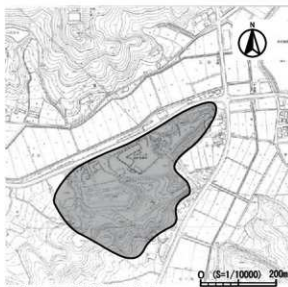


図60 石橋遺跡位置図



写真80 2・3T調査状況



図61 調査区位置図

第23項 深沢遺跡

1. 調査原因 送電線建設工事
2. 調査地点 南相馬市鹿島区川子字深沢地内
3. 調査期間 平成28年10月26日
4. 調査対象面積 2,041.9㎡
5. 調査面積 4㎡
6. 調査担当 主 査 林 紘太郎  
埋蔵文化財調査員 濱 須 脩
7. 調査成果 本開発予定地において2箇所の調査区を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。地表面から深さ30～40cmのところまで基盤層となる黄褐色土の堆積層を確認した。遺構等は検出されなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を必要とする遺構・遺物は確認できなかったが、埋蔵文化財包蔵地内での開発であるため、工事立会による対応が望ましい。

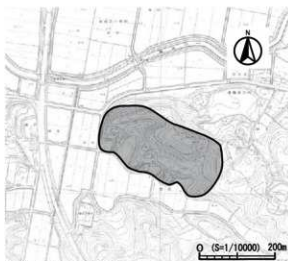


図62 深沢遺跡位置図

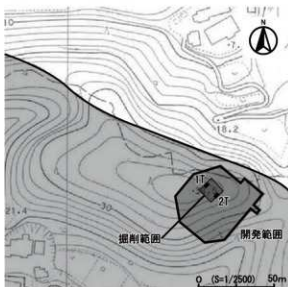


図63 調査区位置図



写真81 1T調査状況



写真82 2T調査状況

## 第24項 八幡林遺跡（15次調査）

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成28年10月27日～平成28年12月2日
4. 調査対象面積 1,847㎡
5. 調査面積 144.3㎡
6. 調査担当 主査 林 紘太郎
7. 調査成果

今回の試掘調査は、開発予定地内に3棟の集合住宅を建設する計画に基づき実施した。

開発予定地が位置する八幡林遺跡は、上真野川南岸の河岸段丘面にあり、後期旧石器時代の石器等が採取され、縄文時代中期から後期にかけた時期の集落や古墳時代の前期集落、後期群集墳である真野古墳群が展開するなど、上真野川流域でも最も埋蔵文化財が密集する地区である。本開発予定地は、八幡林遺跡の北辺、河岸段丘崖辺縁に位置する。

### 【調査方法】

試掘調査では、開発予定地内に2m×9mの調査区を6箇所(1T～6T)設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。なお、2T・4T・6Tについては、検出された遺構が建物の基礎工事により、損壊を免れることができないことから、一部調査区を拡張し、記録保存を実施した。

### 【基本土層】

各調査区の基本土層は、8層(LI～LVIII)からなる。LIは黒色の締まりの弱い近年の耕作土である。LIIは拳大の褐色系粘質土塊を多量に含む造成土、LIIIは、黒褐色系の締まりの弱い造成以前の旧表土である。LIVは下層の褐色土粒・塊を含有する黒褐色土、LVは1～10cm程度の礫を含む暗褐色土、LVIは、褐色系粘質土で構成されている。LVIIは1～10cm程度の礫を多く含む褐色系の砂質土である。最下層のLVIIIは浅黄橙色を主とした砂礫層



図64 八幡林遺跡位置図

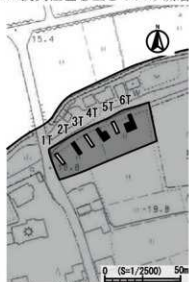


図65 調査区位置図



である。LⅠ～Vは土地造成や農耕等、人工的な影響を受けた層である。LⅥ～Ⅷは、本開発予定地内の基盤層として捉えた。基盤層のうち、LⅥについては、3つの調査区(1T・2T・6T)において確認されなかった部分もあり、開発予定地の北側は段丘崖に位置するため、LⅥが段丘下方に流出したか、後世の土地改変により損失したものと考えられる。

基本土層から出土した遺物は図69に示した。LⅡからは1～9、LⅢからは10～14、LⅣからは15～18、LⅤからは19～22、LⅥ上面から23・24が出土し、縄文時代中期中葉から後期初頭の遺物であると考えられる。また、小片により図示できなかったが、LⅣからは土師器片も出土しており、古墳時代以降に土地改変があったことが考えられる。LⅤからは、縄文土器片のみ確認されており、縄文時代の遺物包含層であると考えられる。

#### 【各遺構】

遺構は、3つの調査区(2T・4T・6T)より検出されており、開発により損失を受ける遺構の記録保存を実施した。

**調査区2(2T)** 調査区の南半分は、倒木による攪乱により損壊されていた。遺構確認の目安となるLⅥは確認されず、基盤層はLⅦ・Ⅷである。LⅤは調査区北部に一部堆積していた。

**1号土坑(SK01)** 1号土坑は、調査区北部の西壁に確認した。検出面はLⅤである。規模は南北に1.18m、調査区西壁から東端までの長さを0.5m、深さは検出面より0.35mを測る。堆積土は5層に分層される。①1～4は褐色土粒及び塊を含む暗褐色砂質土であり、自然な流れ込みによる堆積土である。底部直上の⑤は5cm程度の礫を含む褐色土であり壁面崩落土と考えられる。このことから1号土坑は、自然埋没したものと考えられる。遺物は出土しておらず、年代及び性格は不明である。

**調査区4(4T 図66)** 調査区4において確認された遺構は、住居跡2件(SI01・03)、土坑1基(SK02)、溝跡1条(SD03)、ピット10基である。どれもLⅤから検出されている。

**1号溝跡(SD01 図66)** 1号溝跡は、調査区南部の拡張範囲から検出された。本溝跡は1号住居跡と重複しており、本溝跡の方が新しい。上端幅0.6m～1.4m、下端幅0.1m～0.6m、検出面からの深さは0.2m～0.35mを測る。堆積土は5層に分層され、上位4層は主に褐色土塊を含む暗褐色土であり、5層目は褐色土を主としている。

遺物は、縄文土器片1点(図70-1)であり、本遺構の底部直上から出土した。おそらく1号溝跡を構築する際に1号住居跡から流れ込んだものと考えられる。

本溝跡に関わる遺物が出土していないことから、本溝跡の時期及び性格は不明であるが、1号住居跡より新しい時期に築かれたものであり、当地において溝を必要とする土地利用が行われていたことが、本溝跡より伺える。

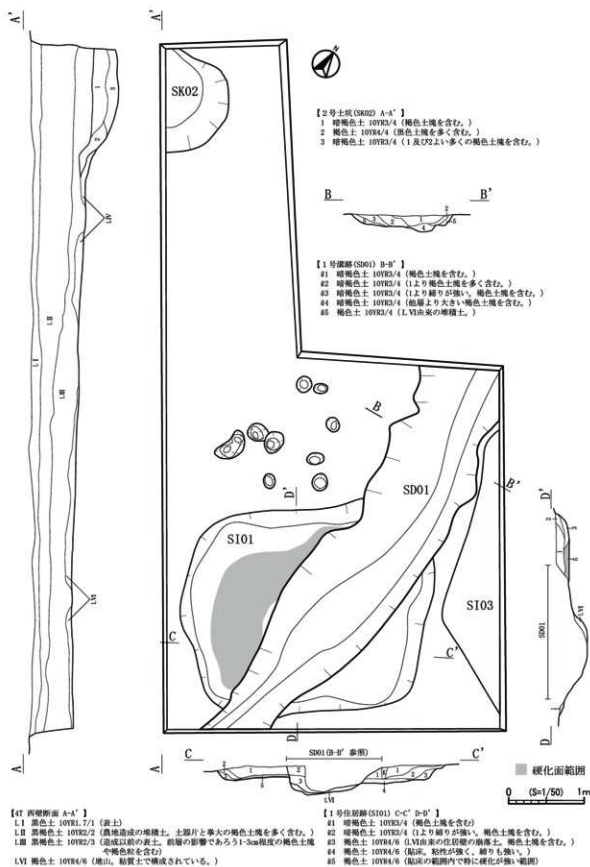


図66 4T 基本土層断面、遺構平面図及び断面図

**1号住居跡(S101 図66)** 1号住居跡は、本調査区の南部に位置する。1号住居跡は、1号溝跡によって、住居跡中央部分を北角から南角にかけて損失しており、検出状況は決して良好ではなかった。本住居跡は、隅丸方形を呈しており、長軸3.4m、短軸2.7mを測る。検出面から住居床面までの深さは0.15mを測る。住居床面の中央には、貼床と考えられる硬化面が確認された。遺物はこの床面直上から出土している。また、本住居跡に伴う柱穴等は検出されなかった。

堆積土は、上層(01・2)に褐色土塊を含む暗褐色土、壁面付近(03)及び床面(04・5)にLVI由来と考えられる褐色土が観察された。褐色土塊が混在状況より人工的に埋没したものであろう。

遺物は、図70-2～6の縄文土器である。2は縦位縄文に断面三角の隆帯による区画がなされ、縄文と隆帯の間に多数の刺突文が穿かれている。3・4は口縁部と体部を隆線により区画し、体部側に縦位の縄文が施されている。5は無文部に赤彩が施されている。6は深鉢の体部片であり縦位縄文が施されている。何れも本住居跡の硬化面(05)の直上より出土したものである。このことから、本住居跡は縄文時代中期後葉にあたと考えている。

**3号住居跡(S103)** 3号住居跡は、調査区内東部に検出された。建物建設による損壊を免れることから、検出状況の確認のみである。検出面からの出土遺物はない。

**2号土坑(SK02 図66)** 2号土坑は、調査区北部の北西角に検出された。調査区2において確認した1号土坑と同様、調査区壁により遺構の半分は調査区外にあり、壁面を軸として半裁調査を行った。規模は長軸1.36m、西壁から本土坑の東端までを0.8m測る。深さは検出面から0.36～0.52mを測る。堆積層は3層からなり、暗褐色土及び褐色土により構成され、褐色土及び黒色土の塊が含まれている。各層ともレンズ状の堆積状況であることから自然に埋没したものと考えられる。本土坑からは、遺物は出土しておらず、時期及び性格は不明である。

**調査区6(6T 図67・68)** 調査区6において検出した遺構は、住居跡2件(S102・04)、土坑1基(SD03)、ピット26基であり、LVIとLVIIの上面から検出した。

**2号住居跡(S102 図67・68)** 2号住居跡は、LIIIを除去したところで確認した。遺構の明確な覆土は損失していた。LIIIを除去すると、締まりのある黒褐色土(06)が面的に観察され、土器片や焼土が散布していた。同面からは、埋設土器と石組みによる複式炉が確認され、本面をもって、本住居の床面であると判断した。06は5～10cm程度の厚みを有し、人為的に敷設したと考えられ、本住居の貼床と考えられる。

本住居跡内部の遺構は、柱穴4基、複式炉1基である。柱穴はP1～4であり、直径25cm～50cm、検出面からの深さ10～30cmを測る。やや離れていたP3を除き、各柱穴の間隔は、P1-P2は2.35m、P1-P4は1.8m、P2-P4は2.18mを測る。本住居跡の複式炉は、土器埋設部、石組み部、前庭部から構成される。土器埋設部は、長軸0.44m、短軸0.42mを測る。埋設土器の周辺には焼土の広がりを確認した。石組み部の規模は長軸0.68m、短軸1.0m、検出面からの深さ0.14mを有する。残存する石組み部の礎は、土器埋設部との境として幅36cmの根石が据えられている。前庭部の規模は、長軸0.74m、短軸0.68m、検出面からの深さ0.12mを測る。前庭部は石組み部から舌状の掘り込みが南方向に延びており、石組み部より掘り込みは浅い。本住居跡における複式炉の位置関係は南北を軸として、北から土器埋設部、石組み部、前庭部の順である。

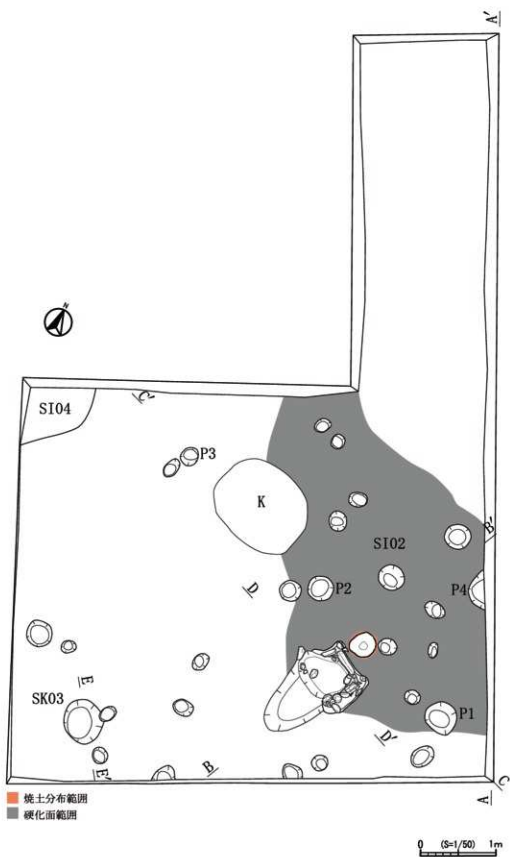


図67 6 T遺構平面図

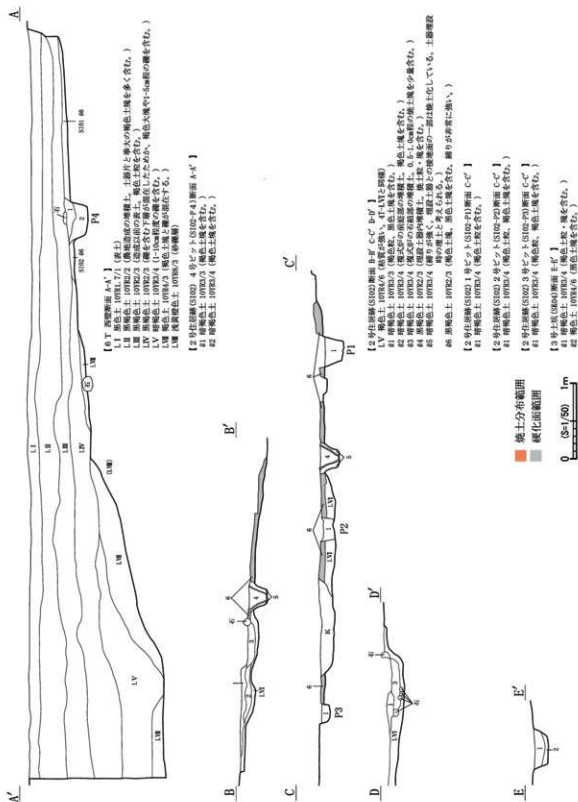


図68 6T基本土層及び遺構断面図(2号住居跡、3号土坑)

複式炉内の堆積土は5層であり、暗褐色土及び黒褐色土の堆積土からなる。焼土は、埋設土器内部(04)と石組み部の堆積土(03)に見られた。また、土器埋設時の堆積土である05の上面に被熱面を観察した。

出土土器は、図70-7～17に当たる。7～11は複式炉の堆積土(01)から出土した。7は深鉢の口縁部であり、断面三角の隆線による区画域に縦位縄文が施されている。8は渦巻沈線文が見られる。9は2条の沈線間に横位刺突列が観察された。10は口縁部であり、やや幅の広い沈線により口縁部と体部を区画している。11は口縁部に横位の縄圧痕が3条、縦位の圧痕が1条見られる。12はやや幅の広い沈線により区画の内側に縦位縄文が施され、盲孔が区画外に見られる。17は複式炉の埋設土器であり、斜位縄文が施されている。13～16は調査区東壁に見られる住居跡01から出土した遺物である。13は縦位の縄文がカムボコ状の隆線により区画されている。14は口縁部と体部を横位沈線により区画し、体部側に1条の縦位沈線が見られる。15は横位の隆線上に竹管背部による押圧文連続しており、隆線上位に2条の横位沈線が並行する。16は鉢である。縄文が施されており、表面は被熱による黒色化が著しい。

以上より本住居跡は、後世の土地改変により遺構の大半を欠損しているが、複式炉を敷設した住居跡であり、出土遺物の時期を考慮すると、縄文時代中期後葉～末葉に展開した住居であると考えられる。

**4号住居跡(S104 図67)** 4号住居跡は、調査区の西角に検出された。開発による損壊を免れることから、検出面を確認するのみである。検出面から遺物は出土していない。

**3号土坑(SK03 図67-68)** 3号土坑は、調査区の南角付近に検出された。規模は上端の長軸0.53m、短軸0.5m、検出面から深さ0.18mを測る。堆積土は2層に分層することができ、暗褐色土(01)、褐色土(02)に分かれる。堆積状況はレンズ状であることから自然埋没である。遺物は出土していないため、本土坑の時期及び性格は不明である。

## 8. 調査所見

今回の試掘調査により、縄文時代中期後葉から末葉にかけての住居跡が、八幡林遺跡の北辺域に展開することが確認された。また、遺構内外を含め、縄文時代中期中葉から後期初頭に至る土器片が出土することが確認された。本遺跡は、縄文時代、古墳時代の集落跡が、過去の調査で確認されており、開発予定地周辺においても、上記の時期に該当する集落が展開することが想定できる。今回、確認された2件の住居跡は、その一端を示すものであろう。

今回の開発計画に際しては、開発に伴う掘削工事により、損壊する遺構において記録保存を実施した。そのため、改めて発掘調査等を実施する必要はないが、開発計画の変更により、今回の調査範囲以外に掘削工事が及ぶ場合は、再度保存協議を要し、必要に応じて試掘調査が必要となる。



写真83 調査前状況



写真84 1T全景



写真85 1T土層断面



写真86 2T全景及び土層断面



写真87 2T 1号土抗土層断面



写真88 3T全景及び土層断面



写真89 5T全景及び土層断面



写真90 調査区埋戻状況



写真91 4 T遺構検出状況



写真92 4 T基本土層断面



写真93 4 T 2号土抗土層断面



写真94 4 T遺構検出状況



写真95 4 T 1号溝跡土層断面



写真96 4 T 1号溝跡完掘



写真97 4 T 1号住居跡土層断面



写真98 4 T 1号住居跡完掘状況





写真99 6 T 遺構検出状況



写真100 6 T 基本土層断面



写真101 6 T 遺構検出状況(拡張部分)



写真102 6 T 3号土坑完掘状況



写真103 6 T 2号住居跡全景



写真104 6 T 2号住居跡複式炉



写真105 6 T 2号住居跡貼床断面



写真106 6 T 完掘状況

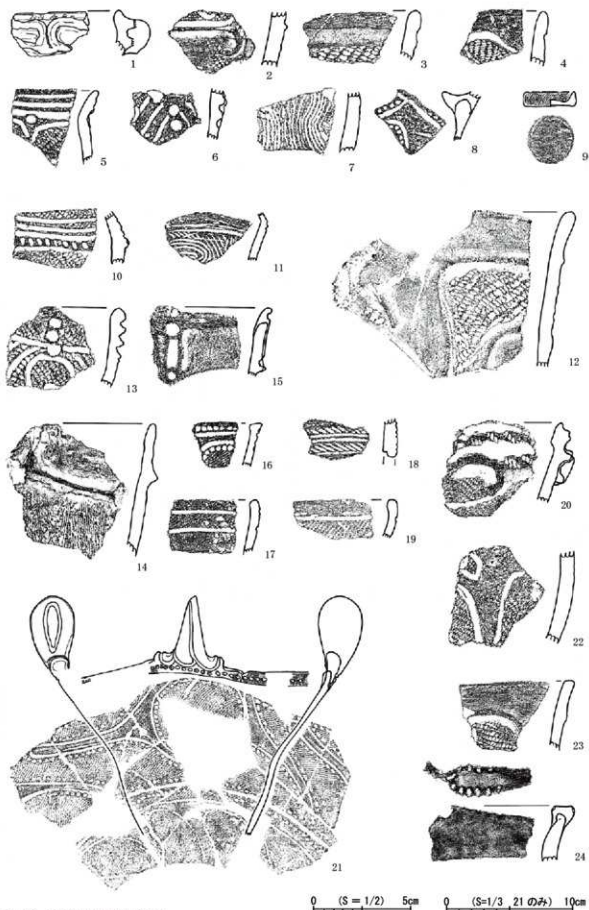


図 69 基本土層出土遺物

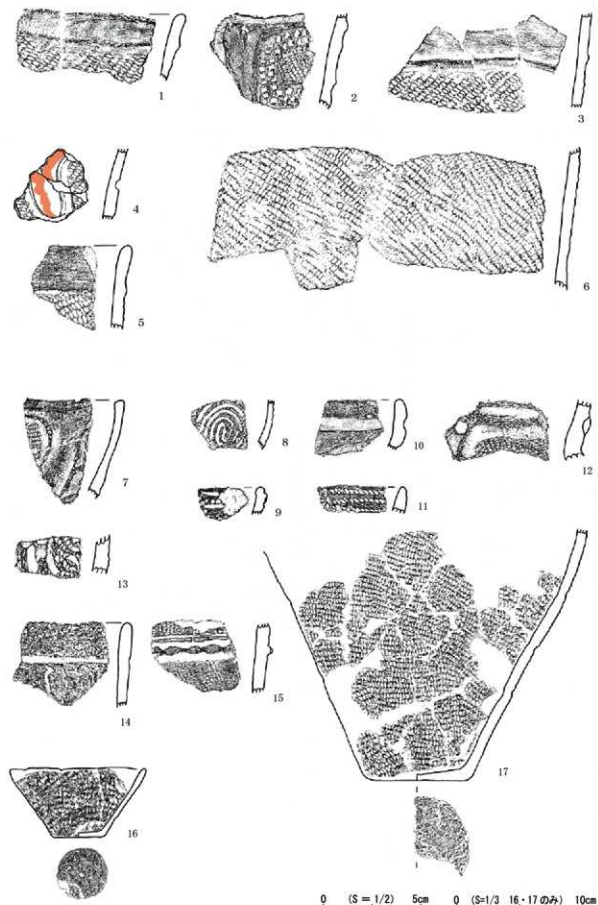


図70 1号溝跡、1・2号住居跡 出土遺物



写真107 八幡林遺跡 出土遺物(1)



図 69-21



図 69-12



図 69-9



図 70-1

図 70-2

図 70-5

図 70-3

図 70-4

写真 108 八幡林遺跡 出土遺物(2)



图 70-17



图 70-6



图 70-16



写真109 八幡林遺跡 出土遺物(3)

## 第25項 桜井B遺跡(14次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上洪佐字原田地内
3. 調査期間 平成28年9月28日～平成28年10月3日
4. 調査対象面積 660㎡
5. 調査面積 30㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に調査区を3ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、現地表面から1m～1.2mの深さで基盤層を確認した。遺物は、土師器片数点が出土したが、保存協議を必要とする遺構は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた保存協議、発掘調査等の措置は必要なく、慎重工事により工事を施行することが望ましい。



図71 桜井B遺跡位置図



図72 調査区位置図



写真110 1T調査状況



写真111 2T調査状況

第26項 荒神前遺跡（8次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市小高区片草字西道地内
3. 調査期間 平成28年11月1日
4. 調査対象面積 1,051㎡
5. 調査面積 16.5㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に調査区を1ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。試掘調査の結果、現地表面から約40cmの深さで基盤層を確認し、溝1条と不明遺構1基を確認した。拡張による不明遺構のプランを検出した後、遺構内覆土の掘削を行った。掘削の結果、覆土内から近代の陶器等が出土したため、近代以降の遺構であると判断した。また遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認できなかったことから、改めた保存協議、発掘調査等の必要はなく、慎重工事により工事を施行することが望ましい。



図73 荒神前遺跡位置図



図74 調査区位置図



写真112 1T調査状況



写真113 1T拡張部調査状況



## 第27項 赤柴遺跡（3次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区馬場字赤柴
3. 調査期間 平成28年11月15日
4. 調査対象面積 602㎡
5. 調査面積 20㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人

7. 調査成果 今回の試掘調査では、調査対象地のうち、掘削の及ぶ建物建設箇所の1箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。調査では、基盤層となる黄色ロームに達するまでの上位堆積土は後世の造成等による攪乱を受けていた。また、基盤層上面においても埋蔵文化財は確認できなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査の結果、本地点においては保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重工事により工事施工することが望ましい。



図75 赤柴遺跡位置図

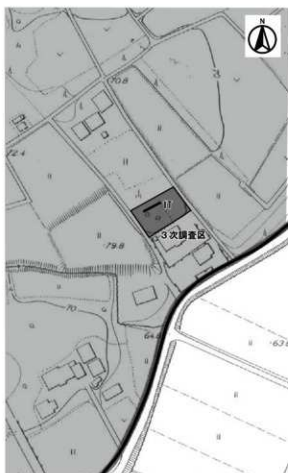


図76 調査区位置図



写真114 調査着手前



写真115 1T調査状況

第28項 赤坂B遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区石神字赤坂
3. 調査期間 平成28年10月18日～平成28年11月29日
4. 調査対象面積 9,900㎡
5. 調査面積 185㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩  
埋蔵文化財調査員 横田 竜巳
7. 調査成果 今回の試掘調査では土砂採取計



図 77 赤坂B遺跡位置図

- 画地となった範囲内に、合計65箇所の調査区を設けて埋蔵文化財の確認作業を行った。試掘調査では開発範囲内において製鉄炉跡1基、廃滓場3箇所、木炭窯跡1基、土坑5基などを確認した。これらの製鉄関連の遺構群は、標高80mの低丘陵の南斜面裾部に形成された、小規模な谷状の地形の中に造営されており、過去の分布調査では、今回の調査地点よりも更に東側にも廃滓場等の製鉄関連の遺構が展開していることが確認されている。
8. 調査所見 今回の開発計画範囲における試掘調査では、計画地の東側部分に製鉄関連の遺構群が分布していることが明らかとなったため、この部分で土砂採取等の開発行為を行う場合には保存協議が必要となるが、開発範囲の西側部分には保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、この範囲については慎重な工事施工が望まれる。

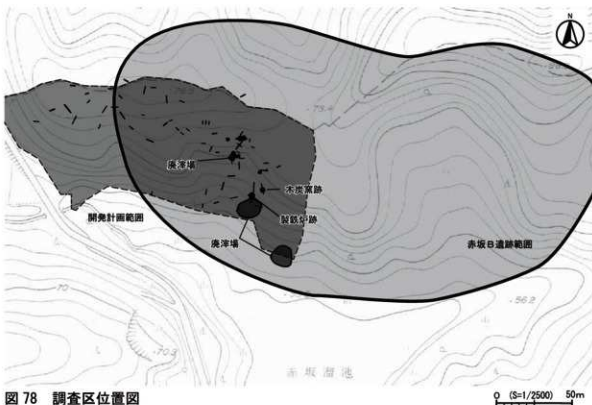


図 78 調査区位置図



写真116 遺構遠景



写真117 調査区近景



写真118 2号廃滓場検出状況



写真119 1号木炭窯跡検出状況(1)



写真120 遺物出土状況(炉壁)



写真121 1号木炭窯跡検出状況(2)

第29項 台遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区小谷字台地内
3. 調査期間 平成28年11月17日～平成28年11月25日
4. 調査対象面積 16,256.86㎡
5. 調査面積 400㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩  
埋蔵文化財調査員 横田 竜巳

7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に2m×10mの調査区を20ヶ所設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。試掘調査の結果、現地表面から約30cmの深さで基盤層

を確認した。掘削を行った調査区では、表土層である耕作土及び床土を掘削した段階で基盤層が確認されており、畑を造成する段階で基盤層より上層が削平されていることが考えられる。遺物は15T、16Tにて土師器片が少量出土している。

8. 調査所見 今回の開発計画に対する試掘調査では、保存協議を必要とする埋蔵文化財が確認できなかったことから、改めた保存協議、発掘調査等の必要はなく、慎重工事により工事を施行することが望ましい。



図79 台遺跡位置図

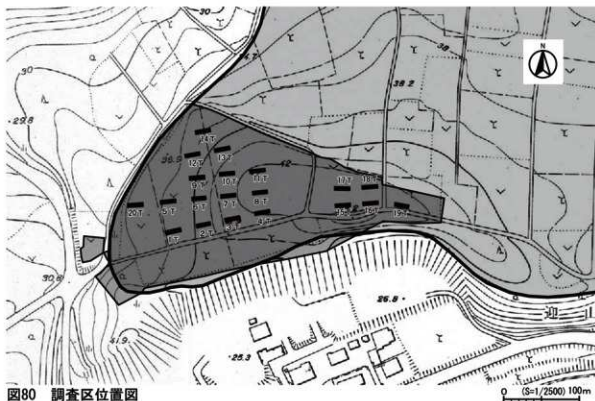


図80 調査区位置図



写真122 調査前状況



写真123 調査前状況



写真124 1 T 調査状況



写真125 2 T 調査状況



写真126 18 T 調査状況



写真127 19 T 調査状況

第30項 梨木下西館跡 (3次調査)

1. 調査原因 土砂採取、個人農地造成、宅地造成
2. 調査地点 南相馬市原町区零字塔場地下地
3. 調査期間 平成28年12月14日～平成29年2月2日
4. 調査対象面積 14,769㎡
5. 調査面積 266.5㎡
6. 調査担当 主査 林 紘太郎
7. 調査成果 本開発予定地に34箇所の調査区を設定し、埋蔵文化財の確認を行った。

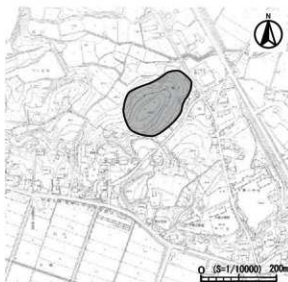


図81 梨木下西館跡位置図

本開発予定地の北及び北西向きの斜面に設置した調査区では、地表面から20～160cmの深さで基盤層となる褐色系シルトの堆積土を確認した。遺構等は確認されていない。

本開発予定地の南西部には、塚状遺構(径6m、高さ1m)を1基確認した。調査区を設定し、堆積土を観察したところ、人為的な積土であることが確認された。遺物は、積土中より須恵器片が出土したのみであった。このことから塚状遺構は、古墳時代以降に築造されたものと考えられるが、遺構の性格については不明である。

本開発予定地の東部に広がる南東向きの斜面地においては、堅穴住居跡が5軒、土坑1基、ピット23基を検出した。堅穴住居跡を検出した調査区からは、土師器片、須恵器片が出土しており、堅穴住居跡は古墳時代以降のものと考えられる。

本開発予定地の南西側に位置する2次調査地点では、古墳時代以降の堅穴住居跡や掘立柱建物跡等が確認されており、この東及び南東向きの斜面地一帯に古墳時代以降の遺構が展開する可能性が高い。

8. 調査所見 今回の調査により、本開発予定地の北及び北西向き斜面については保存協議の対象となる埋蔵文化財が確認されていないことから、開発を実施する場合は、慎重に施工することを要する。

南東向きの斜面地については、埋蔵文化財が存在していることが確認された。そのため、掘削による工事を行う場合は改めて保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。



図82 調査区位置図



写真 128 塚状遺構調査状況



写真 129 1T 塚状遺構断面



写真 130 9T 調査状況



写真 131 12T 調査状況



写真 132 19T 調査状況



写真 133 24T 遺構検出状況



写真 134 27T 遺構検出状況



写真 135 28T 遺構検出状況



写真 136 28T 作業風景

第31項 迎山遺跡（2次調査）

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区飯崎字迎山地区内
3. 調査期間 平成28年12月13日～平成29年1月19日
4. 調査対象面積 40,000㎡
5. 調査面積 60.1㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の調査では、追加調査として1次調査で調査区を設定しなかった開発範囲東側を中心に行った。調査箇所は南西から北東に向かって平行して伸びる2本の谷にて行い、谷の斜面に幅1mの調査区を12ヶ所（1T～12T）設定し、製鉄に関連



図83 迎山遺跡位置図

した埋蔵文化財の有無の確認を行った。調査の結果、約40～60cmの深さで基盤層に達した。基盤層を確認するまでの基本土層は、最上層に約10cmの黒褐色の腐葉土層、下層に約20cmの褐色土層と約30cmの黒褐色土層が堆積し、その下層に黄褐色の基盤層が確認されている。

一連の調査で確認された遺構は、南側の谷に設定した5 Tから鍛冶炉跡が1基、北側の谷に設定した9 Tから鍛冶炉跡が1基検出しており、いずれも南に面した斜面で確認されている。遺物は、南側の谷に設定した2 Tで鉄滓が数点出土したが、周辺の調査区では鉄

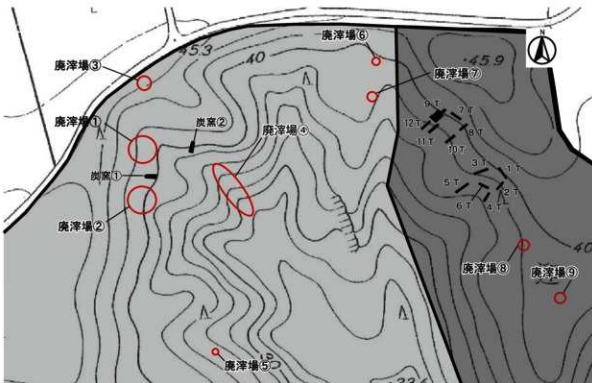


図84 調査区位置図



滓は確認されず、出土したのが表土層付近であったことから、周辺に分布する廃滓場からの流入と判断した。

【5 T SWk1 (図85)】: 5 Tは南向き斜面の底部付近、比較的緩やかな斜面に設定した調査区である。鍛冶炉跡は調査区の中央からやや南西よりの位置で検出している。検出面は黄褐色の基盤層の上面である。遺構周辺が平坦な地形であったため、斜面を削平して作業場が造成されていると考えられるため、調査区を拡張し、作業場の壁面の確認を行った。拡張の結果、作業場の壁面は確認できず、鉄滓等の遺物も確認できなかったことから、作業場は流失していると考えられる。

炉跡は、掘方の内面に粘土を張り付けて構築されており、平面形は円形に近い形状で、全体の形状がボウル状を呈している。規模は直径39 cm、深さ14 cmを測る。内部から椀型滓は出土しなかったが、被熱硬化した壁面には少量の溶着滓が確認できる。周壁及び底面は、被熱硬化して黄褐色ないしは灰白色を呈しており、被熱は周壁では壁面から最大10 cm、底面では最大5 cmのところまで及んでいる。炉跡内の覆土は、暗褐色土の単一土層で、炭化物と焼土ブロックを含んでいるが、椀型滓、鍛造剥片は出土していないため、操業後に堆積した層と考えられる。炉跡の周辺からも鉄滓や鍛造剥片が確認されなかったことから、1度の操業が終わるごとに炉の内部と周辺を清掃している可能性が考えられる。遺物は出土していないため、年代は不明であるが周辺に分布する鉄滓から8世紀後半～9世紀にかけての遺構と推測される。

【9 T SWk2 (図86)】: 9 Tは南向き斜面緩やかな斜面に設定した調査区である。鍛冶炉跡は調査区の中央で検出され、検出面は黄褐色の基盤層の上面である。遺構周辺が平坦な地形であり、調査区の壁面にて作業場の掘方を確認したため、斜面を削平して作業場が造成されていると考えられることから、調査

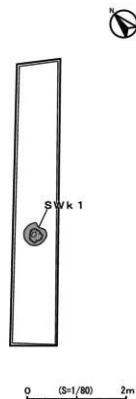


図85 5 T平面図

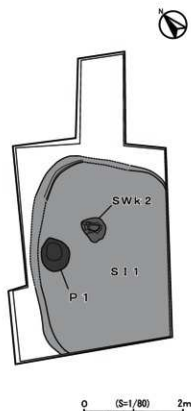


図86 9 T平面図

区を拡張し、作業場のプランの確認を行った。拡張の結果、作業場の北コーナーと西コーナーの一部、北東辺、北西辺を確認した。しかし、斜面側である南東辺、南西片及び南コーナーは遺存しておらず、流失したものと考えられるため、作業場の正確な平面形は不明であるが、北側部分の残りが良かったため、長軸4m、短軸2.5mの隅丸長方形を呈していると考えられる。遺構は鍛冶炉跡に伴うピット1基を、炉跡から西に70cmの位置で検出している。

鍛冶炉跡は、掘方の内面に粘土を張り付けて構築されており、平面形は楕円形に近い形状で全体が皿状で北端の縁が上に向かって大きく立ち上がる。規模は長径28cm、短径15cm、深さ5cmを測る。内部から椀型滓は出土しなかったが、被熱硬化した底面には少量の溶着滓が確認できる。周壁及び底面は、被熱硬化して黄褐色ないしは灰白色を呈しており、被熱は周壁では壁面から最大16cm、底面では最大7cmのところまで及んでいる。5Tとは異なり、炉の近辺に板状の石が埋め込まれており、炉をつくる際に構築材として用いられたと考えられる。炉跡内の覆土は、暗褐色土の単一土層で、炭化物と焼土ブロックを含んでいるが、SWk1と同様に椀型滓、鍛造剥片は出土しておらず、作業後に堆積した層と考えられる。また、炉跡の周辺からも同様に鉄滓や鍛造剥片が確認されなかった。遺物は周辺から羽口が1点出土している。また、鍛冶炉に伴う遺構として、ピット1基を検出している。規模は長径88cm、短径75cm、深さは30cmを測る。遺構内覆土からは、鍛冶炉内部と周辺から確認されなかった椀型滓と鍛造剥片が出土し、ピット壁面と底面から甕の一部と考えられる須恵器片が数点出土している。炉跡の周辺から確認できなかった椀型滓と鍛造剥片がピット内から確認されていることから、前述したように1度の作業が終わるごとに炉の内部と周辺を清掃している可能性が非常に高い。年代は出土している遺物と周辺に分布する鉄滓から8世紀後半～9世紀にかけての遺構と推測される。

8. 調査所見 今回の調査では、5Tと9Tの2ヶ所の調査区にて8世紀後半～9世紀にかけての鍛冶炉跡を確認した。これらの遺構に関しては、土砂採取可能範囲を確保するため、試掘調査による記録保存を行った。そのため、改めて発掘調査の必要はないが、周辺に製鉄に関連した遺構が確認されていることから開発工事を施行する場合は、周辺の遺構に開発工事が及ばないよう事前に協議を行うことが望ましい。



写真137 調査前状況全景



写真138 5 T 調査状況



写真139 5 T SWk1検出状況

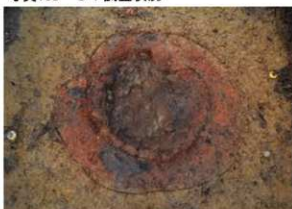


写真140 5 T SWk1完掘状況



写真141 9 T 調査状況



写真142 9 T SWk2調査状況



写真143 9 T SWk2遺構検出状況

### 第32項 大田和広畑遺跡（5次調査）

1. 調査原因 携帯電話中継無線基地局
2. 調査地点 南相馬市小高区金谷字北原地内
3. 調査期間 平成29年1月11日
4. 調査対象面積 4㎡
5. 調査面積 2㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人  
主任文化財主査 柴田亮平(山梨県支援)

7. 調査成果 今回の試掘調査では、2m×2mの調査区を設定し、埋蔵文化財の有無についての確認作業を実施した。調査区内では、深さ80cm～1m前後の後世の盛土が続き、調査区内においては、これ以上の掘削はできなかった。これまでの調査のなかでは、土器等の出土は認められなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったこと、開発計画範囲が4㎡と狭小であることから、仮に埋蔵文化財が所在していたとしても、遺構に対する影響は少ないと判断されることから、工事施工に際しては改めた保存協議は要せず、慎重工事による施工が望ましい。



図 87 大田和広畑遺跡位置図



図 88 調査区位置図



写真 144 調査着手前状況



写真 145 調査状況

## 第33項 仏供田B遺跡(2次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区上根沢仏供田地内
3. 調査期間 平成29年1月24日～平成29年1月31日
4. 調査対象面積 3,454㎡
5. 調査面積 54㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人  
文化財副主査 柴田亮平(山梨県支援)
7. 調査成果 試掘調査対象地に調査区7ヶ所を設置して埋蔵文化財の確認を行った。その結果、現地表面から30～40cmの深さで基盤層を確認した。また、尾根上のトレンチから木炭焼成土坑を1基検出し、その周辺から少量の土師器が出土した。
8. 調査所見 今回の調査地点では、時期不明の木炭焼成土坑が1基確認できたのみであり、遺物は出土したものの少量であった。出土した遺物は検出した木炭焼成坑付近から出土しており、木炭焼成坑が機能している頃のものと同推測される。なお、今回の開発計画に際しては確認した木炭焼成坑については必要な記録を作成したため、改めた発掘調査を必要とせず、慎重に工事施工することが望まれる。



図 89 仏供田B遺跡位置図



図 90 調査区位置図



図 146 1 T 調査状況



図 147 3 T 木炭焼成坑完掘状況

第34項 泉館跡（3次調査）

1. 調査原因 店舗及び倉庫建設
2. 調査地点 南相馬市原町区泉字町地内
3. 調査期間 平成29年2月22日
4. 調査対象面積 1,285㎡
5. 調査面積 16㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発計画地が飛地状に離れていることから東側をA区、西側をB区とした。A区では南北方向に調査区を設定して埋蔵文化財の有無を確認した。

表土除去後に基盤層となる黄色ハードローム層が検出されたが、所々に重機の掘削痕が確認され、後世の造成を受けていることが明らかとなった。ただし、調査区南端には竪穴住居跡もしくは溝跡と思われる遺構が遺存しており、少量の土師器片が出土した。B区では、2箇所調査区を設けて、遺構・遺物の確認作業を行った。調査では、表土直下に1m程度の造成盛土が堆積しており、この盛土の下層で灰白色砂質土による基盤層を確認した。遺構は確認されず、盛土内から瓦片1点出土した。

8. 調査所見 今回の試掘調査の結果、A区には竪穴住居跡等の遺構が存在していることから、遺構確認面まで掘削が及ぶ工事が施工される場合には改めた保存協議を要するが、B区では明らかな埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた保存協議は要せず、慎重工事により施工されることが望ましい。



図91 泉館跡位置図



図92 調査区位置図



写真148 1T調査状況

## 第35項 陣ヶ崎A遺跡(2次調査)

1. 調査原因 宅地造成
2. 調査地点 南相馬市原町区馬場字原地内
3. 調査期間 平成29年3月16日・17日
4. 調査対象面積 1,513㎡
5. 調査面積 60㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、調査対象地内に幅2m×長さ10mの調査区を3箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を実施した。現状は畑地となっており、約40cmの耕土を除去した時点で黄色砂質ロームの基盤層に達した。また1・3Tでは基盤層の一部を断割り、旧石器の有無の確認に努めたが、遺構・遺物を確認することはできなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、改めた保存協議を要する埋蔵文化財は確認できなかったことから、記録保存等の措置は必要とせず、慎重工事による工事施工が望ましい。



図93 陣ヶ崎A遺跡位置図



図94 調査区位置図



写真149 1T調査状況



写真150 2T断割り状況

第36項 荻原遺跡（7次調査）

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区羽倉字南沢
3. 調査期間 平成28年10月31日～  
平成28年12月5日
4. 調査対象面積 13,127㎡
5. 調査面積 123.64㎡
6. 調査担当 文化財主査 柴田亮平(山梨県支援)
7. 調査成果 試掘調査対象地に調査区  
28ヶ所を設置して埋蔵文化財の確認を  
行った。現地は上位段丘と下位段丘に  
分かれている。上位段丘では現地表面  
から深さ30cmの黒褐色細粒砂層中で、縄文時代早期後半の土器片が少量出土した。ただし、  
この遺物包含層が残存している箇所は少なく、削平を受けて消失していたり、再堆積となっ  
ている箇所が多く見られた。福島県による1～4次調査では旧石器時代の遺物が出土して  
いるため、さらに20～30cm下層の黄褐色ローム層まで掘り下げたが、遺構・遺物は確認  
されなかった。また、下位段丘は河川堆積による砂層によって形成されており、遺構・遺  
物は確認されなかった。



図95 荻原遺跡位置図

8. 調査所見 今回の調査地点では、遺構は確認できなかった。また、上位段丘で確認された  
遺物包含層も、わずかにしか残っておらず、出土も少量であった。このことから、当該計  
画に際して発掘調査を必要とせず、慎重に工事施工することが望まれる。



図96 調査区位置図



写真151 1T調査状況



写真152 6T調査状況



## 第37項 羽倉南沢地区

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市小高区羽倉宇南沢地内
3. 調査期間 平成29年2月8日～平成29年3月31日
4. 調査対象面積 342,508㎡
5. 調査面積 375㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人 文化財副主査 柴田亮平(山梨県支援)  
埋蔵文化財調査員 濱須 脩
7. 調査成果 今回の試掘調査対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地外における開発計画であったが、隣接地には萩原遺跡が所在していることならびに、現地踏査の結果、廃滓場等の製鉄関連遺構が確認されたことから、調査区を設定した試掘調査を行った。

試掘調査では調査区44か所を設定して埋蔵文化財の確認作業を実施した。調査は調査対象地の地形によりA区～H区の8区に区分して行った。A区には4～9 Tの6箇所に調査区を設定して遺構・遺物の有無の確認作業を行い、各調査区において縄文土器片が出土したが、遺構は確認できなかった。B区は丘陵頂部の平坦面に設けた1～3 Tの調査区で確認作業を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。C区はA区の南側にある緩斜面を指す。13箇所に調査区を設定したが、後世の造成に伴う盛土が厚く堆積しており、遺構・遺物は確認できなかった。D区はA区西側の谷部に設けた調査区を指す。9箇所に調査区を設定したが、遺構・遺物は確認できなかった。

E区・F区は製鉄関連遺構が構築されやすい、緩やかな谷部に設定した調査区である。

合計8箇所の調査区を設けて遺構・遺物の確認に努めたが、埋蔵文化財は確認できなかった。G区・H区は現況において廃滓場ならびに木炭窯跡が露呈している調査区であることから、敢えて調査区を設けずに保存協議対象区域として設定した。また、丘陵南向き斜面には川原石を直径10m弱の円形に

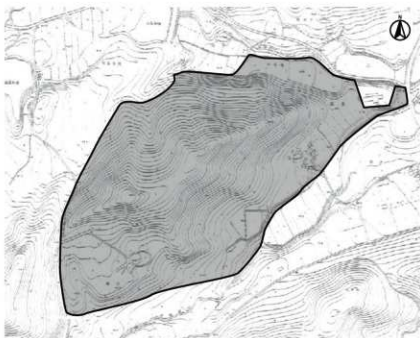


図97 羽倉南沢地区位置図

積んで構築した現代の、いわゆる「大竹式」木炭窯跡14基を確認しているが、これらは保存協議対象からは除外している

8. 調査所見 今回の試掘調査では、縄文時代前期と奈良時代から平安時代にかけて遺構・遺物が確認された。縄文時代に属するものは開発対象地西部の平坦部に所在し、奈良時代～平安時代に属する製鉄関連遺構は、開発対象地の西端の深い谷部と調査対象地内を流れる小枝谷沿いに分布していることが確認された。以上の調査成果から遺構・遺物が確認されたA区・G区・H区の3箇所について掘削を伴う工事施工が実施される場合には、改めた保存協議を要するが、それ以外のB～F区を含む範囲については埋蔵文化財の所在は確認されなかったことから、改めた保存協議や発掘調査の必要はないものと判断される。

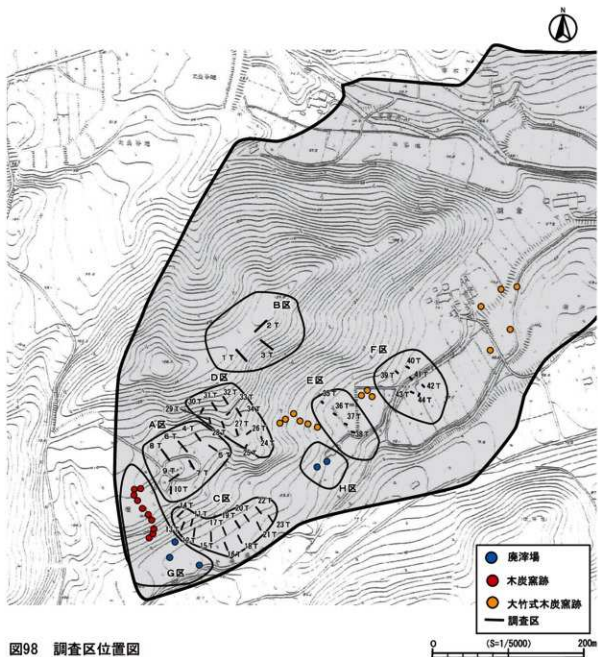


図98 調査区位置図



写真153 A区7T調査状況



写真154 B区3T調査状況



写真155 C区15T調査状況



写真157 E区37T調査状況



写真156 D区26T調査状況



写真158 F区44T調査状況

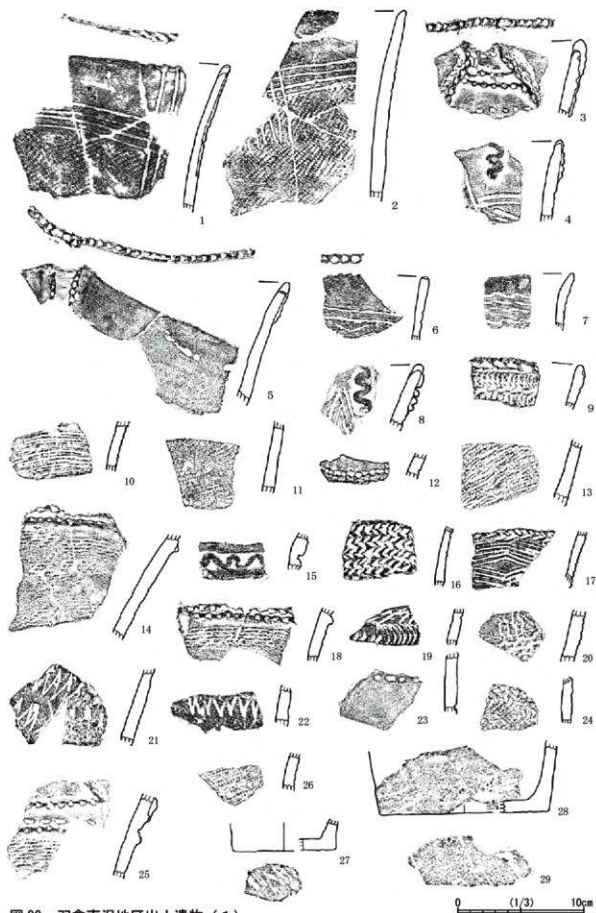


图99 羽倉南沢地区出土遺物(1)

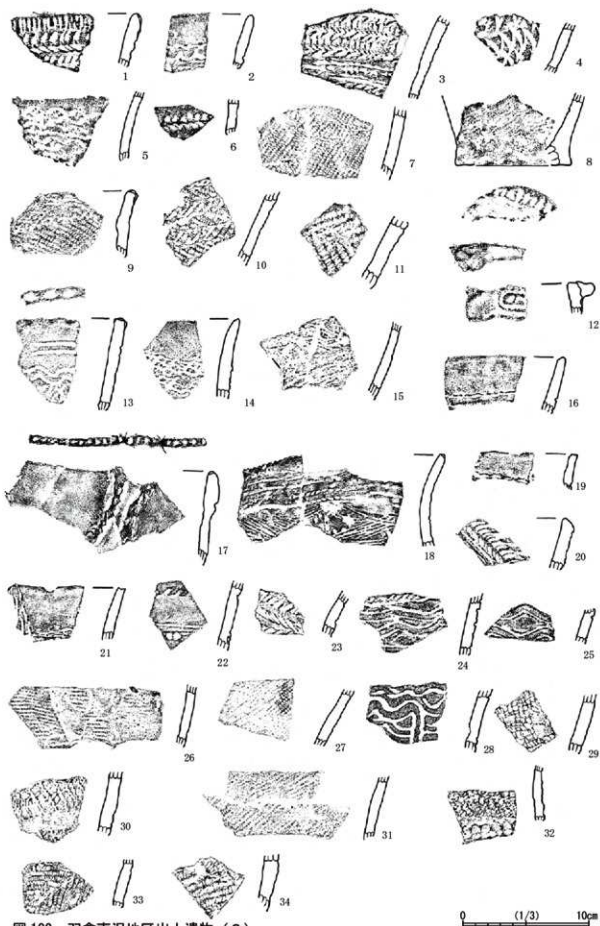


图 100 羽倉南沢地区出土遺物 (2)



写真159 羽倉南沢地区出土遺物（1）



写真160 羽倉南沢地区出土遺物（2）

第38項 寺内本屋敷地区（2次調査）

1. 調査原因 商業施設建築
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字本屋敷
3. 調査期間 平成28年9月15日～  
平成28年9月30日
4. 調査対象面積 11,146.65㎡
5. 調査面積 180㎡
6. 調査担当 理蔵文化財調査員 横田竜巳  
文化財副主査 柴田亮平(線跡課)
7. 調査成果 試掘調査対象地に調査区  
9ヶ所を設置して理蔵文化財の確認を  
行った。現地表面から深さ20～30cm  
(盛土を含めると60～90cm)の黄褐色中粒砂層で6基の土坑、5条の溝跡、44基の小穴を  
確認した。また、表土や遺構確認面からは、摩耗した土師器の小片が少量出土した。



図101 寺内本屋敷地区位置図

8. 調査所見 今回の調査地点では、多くの遺構が確認されたが、全て時期不明であった。また、出土した遺物は摩耗が激しく、洪水等により調査区外から流れてきたと考えられる。このことから、当該計画に際して発掘調査を必要とせず、工事立会を行うことが望ましい。



図102 調査区位置図



写真161 1T調査状況



写真162 2T土坑確認状況



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみそうましなしいせきはつちようさほうこくしょ11					
書名	南相馬市内遺跡発掘調査報告書11					
副書名	平成25・28年度試掘調査報告					
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第25集					
編著者名	川田 強・荒 淑人・藤木 海・佐川 久・林紘太郎・柴田亮平・横田竜巳・濱須 脩					
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化財課					
所在地	〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前一丁目70 TEL.0244-24-5284					
発行年月日	西暦 2018 (平成 30年) 3月 31日					
所収遺跡	所在地	コ ー ド 市 町 村 遺 跡 番 号	北 緯 東 経	調 査 期 間 上 段 : 着 下 段 : 完	面積 (㎡)	調 査 原 因
原山遺跡 2次調査	南相馬市原町区 上渋佐字原田	212500237	37° 37' 01" 141° 00' 05"	1 3 0 6 2 1 1 3 0 7 0 8	200.0	民間事務所 倉庫建設
石ノ宮製鉄遺跡	南相馬市鹿島区 永田字永田	212500105	37° 42' 58" 140° 58' 02"	1 6 0 4 0 1 1 6 0 4 1 2	48.0	土砂採取
永田古墳群B	南相馬市鹿島区 永田字永田	212500702	37° 71' 67" 140° 96' 68"	1 6 0 4 0 1 1 6 0 5 3 1	134.0	土砂採取
高見町C遺跡 3次調査	南相馬市原町区 高見町一丁目	212500415	37° 38' 20" 140° 59' 51"	1 6 0 4 0 8 1 6 0 4 1 1	3.0	集合住宅設
新田原遺跡 2次調査	南相馬市原町区 信田沢字新田原	212500276	37° 39' 33" 140° 55' 53"	1 6 0 5 1 8 1 6 0 5 3 0	135.4	宅地造成
前迫製鉄遺跡	南相馬市鹿島区 川子字宮田	212500071	37° 40' 32" 140° 58' 37"	1 6 0 4 1 2 1 6 0 5 2 0	89.5	土砂採取
鷲内遺跡 3・4次調査	南相馬市鹿島区 寺内字鷲内	212500101	37° 42' 6" 140° 57' 29"	1 6 0 4 2 1 1 7 0 3 1 0	320.0	養護学校設
桜井D遺跡 16次調査	南相馬市原町区 上渋佐字原田	212500175	37° 39' 24" 140° 59' 36"	1 6 0 6 0 6 1 6 0 6 0 7	12.0	個人住宅設
桜井B遺跡 13次調査	南相馬市原町区 上渋佐字原田	212500178	37° 38' 46" 140° 59' 30"	1 6 0 6 1 4 1 6 0 6 1 5	38.0	集合住宅設
北海老大畑遺跡	南相馬市鹿島区 北海老字北畑	212500701	37° 70' 82" 140° 99' 39"	1 6 0 6 1 7 1 6 0 7 1 9	195	墓地造成
小高城跡 3次調査	南相馬市小高区 小高字城下	212500460	37° 34' 4" 140° 59' 28"	1 6 0 6 1 5 1 6 0 6 1 5	50.0	個人住宅設
比丘尼沢遺跡 2次調査	南相馬市原町区 上北高平字比丘尼沢	212500697	37° 39' 37" 140° 58' 3"	1 6 0 6 2 0 1 6 0 7 2 6	248.3	土砂採取
城ノ内遺跡	南相馬市原町区 高字鍛冶内	212500270	37° 36' 1" 140° 59' 34"	1 6 0 6 2 1 1 6 0 6 2 2	25.0	個人住宅設
荒神前遺跡 6次調査	南相馬市小高区 片草字西堂	212500512	37° 34' 27" 140° 58' 23"	1 6 0 6 2 7 1 6 0 6 2 7	10.0	個人住宅設
仏供田B遺跡	南相馬市小高区 上根沢字仏供田	212500703	37° 32' 32" 140° 58' 19"	1 6 0 6 2 2 1 6 0 6 2 9	36.3	土砂採取
熊野前遺跡	南相馬市鹿島区 小島田字北畑	212500076	37° 41' 36" 140° 58' 49"	1 6 0 7 0 5 1 6 0 7 0 5	14.0	個人住宅設
赤柴遺跡 2次調査	南相馬市原町区 押釜字押釜	212500420	37° 61' 93" 140° 92' 31"	1 6 0 7 2 0 1 6 0 7 2 1	27.3	土砂採取

片草南原遺跡 2次調査	南相馬市小高区 片草字南原	212500454	37° 34' 32" 140° 58' 17"	160711 160711	10.0	個人住宅設 建
中村平遺跡 3次調査	南相馬市小高区 吉名字中村平地内	212500533	37° 33' 17" 140° 58' 47"	160801 160801	16.0	個人住宅設 建
荒神前遺跡 7次調査	南相馬市小高区 片草字一里段	212500512	37° 34' 24" 140° 58' 22"	160801 160802	2.6	個人住宅設 建
迎山遺跡	南相馬市小高区 飯崎字迎山	212500691	37° 33' 42" 140° 57' 17"	160809 160914	73.0	土砂採取
高松C遺跡	南相馬市原町区 上北高平字高松	212500338	37° 39' 49" 140° 57' 1"	160906 160909	12.9	市道改良事 工
石橋遺跡 2次調査	南相馬市原町区 牛来字西谷地・石橋	212500366	37° 37' 15" 140° 58' 26"	160914 160916	31.6	土砂採取
深沢遺跡	南相馬市鹿島区 川子字深沢	212500059	37° 40' 51" 140° 59' 7"	161026 161026	4.0	送電線設 建
八幡林遺跡 15次調査	南相馬市鹿島区 寺内字八幡林	212500041	37° 41' 56" 140° 57' 19"	161022 161202	144.3	集合住宅設 建
板井B遺跡 14次調査	南相馬市原町区 上佐佐字原田	212500178	37° 40' 51" 140° 59' 24"	160928 161003	30.0	集合住宅設 建
荒神前遺跡 8次調査	南相馬市小高区 片草字西堂	212500512	37° 34' 26" 140° 58' 28"	161101 161101	16.5	個人住宅設 建
赤柴遺跡 3次調査	南相馬市原町区 馬場字赤柴	212500420	37° 61' 72" 140° 92' 67"	161115 161115	20.0	住宅建設
赤坂B遺跡	南相馬市原町区 石神字赤坂	212500360	37° 38' 43" 140° 55' 26"	161018 161129	185.0	土砂採取
台遺跡	南相馬市小高区 小谷字台	212500607	37° 33' 53" 140° 57' 44"	161117 161125	400.0	土砂採取
梨木下西館跡 3次調査	南相馬市原町区 雫字塔場下	212500304	37° 36' 44" 141° 0' 7"	161214 170202	266.5	土砂採取他
迎山遺跡 2次調査	南相馬市小高区 飯崎字迎山	212500691	37° 33' 42" 140° 1' 0"	161213 170308	60.1	土砂採取
大田和広畑遺跡 5次調査	南相馬市小高区 金谷字北原	212500472	37° 54' 90" 140° 94' 34"	190111 190111	2.0	携帯電話無線 基地局
仏供田B遺跡 2次調査	南相馬市小高区 上根沢字仏供田	212500703	37° 54' 06" 140° 97' 34"	190124 190131	54.0	土砂採取
泉館跡 2次調査	南相馬市原町区 泉字館前	212500229	37° 64' 76" 140° 01' 68"	190222 190222	16.0	事業所建設
陣ヶ崎A遺跡 2次調査	南相馬市原町区 馬場字原	212500194	37° 61' 47" 140° 93' 68"	190316 190317	60.0	宅地分譲
荻原遺跡 7次調査	南相馬市小高区 羽倉字南沢	212500450	37° 58' 49" 140° 93' 24"	181031 181205	123.0	土砂採取
羽倉南沢地区	南相馬市小高区 羽倉字南沢	—	37° 58' 20" 140° 92' 34"	190208 190331	375.0	土砂採取
寺内本屋敷地区 2次調査	南相馬市鹿島区 寺内字本屋敷	—	37° 42' 1" 140° 57' 42"	160915 160930	180.0	商業施設 建

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原山遺跡 2次調査	集落跡・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	住居跡・土坑	弥生土器・土師器 須恵器	
石ノ宮製鉄遺跡	製鉄跡	奈良・平安	廃滓場	鉄滓	

永田古墳群 B	古墳	古墳	前方後円墳 2・円墳 2	—	
高見町 C 遺跡 3 次調査	散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	土師器	
新田原遺跡 2 次調査	散布地	奈良・平安	—	—	
前迫製鉄遺跡	製鉄跡	弥生・奈良・平安	木炭窯跡・木炭焼成土坑	鉄滓・羽口・炉壁	
鷺内遺跡 3・4 次調査	集落跡・散布地	縄文・奈良・平安	貯蔵穴・住居跡	縄文土器・土師器 須恵器	
桜井 D 遺跡 1 6 次調査	集落跡・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	土師器・須恵器	
桜井 B 遺跡 1 3 次調査	集落跡・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	土師器	
北海老大畑遺跡	古墳・製鉄跡 散布地	古墳・平安	円墳 2・魔滓場	鉄滓	
小高城跡 3 次調査	城館跡	中世	—	—	県史跡
比丘尼沢遺跡 2 次調査	製鉄跡	平安	魔滓場・木炭窯跡	—	
城ノ内遺跡	散布地	奈良・平安	—	土師器・須恵器	
荒神前遺跡 6 次調査	集落跡・散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
仏供田 B 遺跡	製鉄跡	奈良・平安	魔滓場	鉄滓・羽口・炉壁	
熊野前遺跡	散布地	古墳・近世	—	土師器・燈明皿	
赤柴遺跡 2 次調査	集落跡・散布地	縄文・弥生	土坑	土師器	
片草南原遺跡 2 次調査	散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	溝跡	土師器	
中村平遺跡 3 次調査	集落跡・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
荒神前遺跡 7 次調査	集落跡・散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
迎山遺跡	製鉄跡	平安	製鉄炉・魔滓場・木炭窯	羽口・鉄滓・炉壁	
高松 C 遺跡	集落跡・散布地	縄文・奈良・平安	住居跡・土坑・溝跡	土師器・須恵器	
石橋遺跡 2 次調査	製鉄跡	平安	魔滓場	羽口・鉄滓・炉壁	
深沢遺跡	散布地	弥生	—	—	
八幡林遺跡 1 5 次調査	集落跡・散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	住居跡・土坑 溝跡・小穴	縄文土器・土師器	
桜井 B 遺跡 1 4 次調査	集落跡・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	土師器	
荒神前遺跡 8 次調査	集落跡・散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	溝跡・不明遺構	—	
赤柴遺跡 3 次調査	集落・散布地	縄文・弥生	—	—	

赤坂B遺跡	製鉄跡・散布地	奈良・平安	製鉄炉・魔滓場 木炭窯跡・土坑	羽口・鉄滓・炉壁	
台遺跡	散布地	古墳・奈良・平安	—	土師器	
梨木下西館跡 3次調査	集落跡・城館跡	古墳・奈良 平安・中世	住居跡・土坑・塚状遺構	土師器・須恵器・鉄滓	
迎山遺跡 2次調査	製鉄跡	平安	鍛冶炉	鉄滓	
大田和広畑遺跡 5次調査	集落・散布地	縄文・奈良・平安	—	—	
仏供田B遺跡 2次調査	製鉄跡	平安	魔滓場	鉄滓	
泉館跡 2次調査	城館跡	奈良・平安・中世	住居跡	—	
陣ヶ崎A遺跡 2次調査	散布地	縄文	—	—	
萩原遺跡 7次調査	集落・散布地	旧石器・縄文	—	—	
羽倉南沢地区	散布地	縄文・平安・近代	木炭窯跡・魔滓場	縄文土器・鉄滓	縄文時代前期 大竹式木炭窯跡
寺内本屋敷地区 2次調査	—	—	土坑・小穴	土師器	

---

印刷 2018年 3月31日  
発行 2018年 3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第27集  
南相馬市内遺跡発掘調査報告書11  
—平成28年度試掘調査—

編集 南相馬市教育委員会 文化財課  
発行 南相馬市教育委員会  
〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前一丁目70番地  
印刷 有限会社 愛原印刷所  
〒975-0003 福島県南相馬市原町区栄町一丁目8番地-

---